

ひとりの大切さ

大分福音キリスト教会 田代 美雪



あなたがたは、この小さい者たちの一人を軽んじたりしないように気をつけなさい。…彼らの御使いたちは、…

マタイ 18・10

私の神学校入学時、本田弘慈師が召されました。「父は大衆伝道者と思われているが、父が追い求めていたのはいつもひとりでした。」と息子さんが言われたと聞きました。また、昔、教育実習で、教頭先生から「生徒一人の背後には家族がいることを忘れないように」と言われたことがあります。もう一つ覚えているのは、神学校の教会実習の時、尼崎の記念集会の準備祈祷で長谷川宣恵先生が「一人も淋しい思いをする人がいないように…」と祈られたことです。目の前の生徒が何人であつてもいつも「ひとり」のために仕える大切さを感じます。二〇二二年6月から私と娘で公園に出かけ毎日子ども達と遊ぶようになりました。公園の子ども達が水曜教会学校に来られるようになりました。かわる間に子ども達は自分の家庭のことをポツリ

と打ち明けてくれます。水曜学校には毎週10名前後の生徒が集います。水曜CSの名簿には22年度12月までで60人の名前があります。翌日水曜には牧師夫妻のCS教師会で子ども達の様子を共有し祈ります。

来た当初、ずるそうな目をしていた子どもが、ウンをついた時、二人きりで話し、お詫びして顔が明るく変わりました。「イエス様を信じたい」と手を挙げました。もう一人の子どもも初めと顔が変わり、子ども祝福式に折り紙を30個作って集ったお友達にプレゼントしてくれました。公園でいつも家の鍵を失くす男の子がいて、何時間もう一緒に探したり、母の帰りを待ったりしました。学校前でConcilioクリスマス会のチラシ配布をした時、雨の中捨てられて濡れたチラシをその子どもが全部拾ってくれていました。主の助けを求めつつ、一人一人の成長を見ながら、神さまのお役に立つ子に育つように祈る時、子ども達は神さまの立派な働き人になります。

私の生まれ故郷の札幌羊ヶ丘教会出身の大先輩に小菅香世子先生がおられます。先生はCSから教会につながり、献身され、多くの実を結んでおられます。ひとりの魂を追い求める牧羊者が一人の救霊者を生む存在となるのだと思います。

牧羊者

目次

| | |
|------------------------|-----------------|
| 巻頭言 | 1 |
| 目次 | 2 |
| カリキュラム | 3 |
| 教師養成講座「新約聖書丸ごと早わかり(2)」 | 4 |
| 受難・復活 | 4 / 2 / 4 / 16 |
| 創造・墮落 | 4 / 23 / 5 / 14 |
| キリストの教え | 5 / 21 / 6 / 25 |
| カリキュラム解説 | 93 |
| 「牧羊者」のご購読・ご利用について | 94 |
| おわりに | 94 |

〔凡例〕

1. 原語について：ギリシャ語は〔ギリ〕、ヘブル語は〔ヘ〕、アラム語は〔ア〕で表記しています。
2. 礼拝メッセージ例の最後の「さんび」の略記について
こ：「こどもさんびか」、こ改：「こどもさんびか改訂版」(以上、日本キリスト教
団出版局)、ホ：「教会学校・日曜学校 子どもさんびか」(日本ホーリネス教団出
版局)、イン：「教会学校さんびか」(インマヌエル教会学校部)、ふ：「ふくいん子
どもさんびか」、GS：「ふくいんこどもさんびか2 グローイング・ソング」(以
上、日本児童福音伝道協会)、PW：「プレイズワールド」(リビングプレイズ)

神を信じる生涯

イザヤ 40・26

● 受難・復活

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

4月2日

進級式・
棕櫚の主日
十字架による
新しい絆

ヨハネ 19・23
～ 30

同 27 節

9日

イースター
復活の主との
出会い

ヨハネ 20・11
～ 18

同 13 節

16日

わたしを愛す
るか

ヨハネ 21・15
～ 19

同 15 節

● 創造・墮落

4月23日

天地創造

創世記 1・1
～ 31

同 1 節

30日

罪の始まり

創世記 2・15
～ 17

同 2・17 節

5月7日

罪の結果

創世記 3・6
～ 19

6・23 節
ローマ

14日 母の日 父と母とを敬え 出エジプト 20・12
～ 17

同 12 節

● キリストの教え

5月21日

さいわいな人

マタイ 5・1
～ 12

同 3 節

28日

ペンテコステ
聖霊の実

ガラテヤ 5・16
～ 26

同 22、23 節

6月4日

地の塩・世の光

マタイ 5・13
～ 16

同 14 節

11日

花の日
主の祈り

マタイ 6・7
～ 13

同 10 節

18日

父の日
天の父の愛

マタイ 5・43
～ 48

同 45 節

25日

人をさばく人
人をさばく人
マタイ 7・1
～ 5

同 1 節

新約聖書丸ごと早わかり (2)

工藤 弘雄



パウロ書簡を理解する

新約聖書の21の書簡のうち13はパウロによって書かれ、「パウロ書簡」と呼ばれています。パウロは伝道旅行中、テサロニケ、ガラテヤ、コリント、そしてローマの教会に手紙を書きました。またローマの獄中で、エペソ、コロサイ、ピリピの教会、そしてピレモンに書いた手紙は「獄中書簡」と呼ばれています。彼の晩年、「牧会書簡」と呼ばれるテモテに対しての二つ、テトスに対しての一つの手紙を書きました。

パウロはタルソで、ユダヤ人の家に誕生。若い時にギリシヤ的教養を十分身につけました。また、エルサレムでパリサイ人の偉大な教師ガマリエルの門下で学んだ熱烈なユダヤ教徒でした。クリスチャン迫害のためダマスコ途上、復活の主と真正面から出会い回心。劇的な回心後、アラビアに退き主と交わり3

年間。その後、世界的な偉大な宣教師になったのです。3回の伝道旅行によって多くの教会を設立し、また手紙を書きました。

パウロはエルサレムで暴徒に襲われた時、市民権を行使して、カイザルに上告するためローマへの長途の旅をしました。ローマ的、ギリシヤ的、ヘブル的背景を持つ彼は、救われる以前から世界宣教師として備えられていたのです。幾多の犠牲と苦難に満ちた生涯の後、伝承によれば、ローマで斬首、その死体は地下墓地に葬られたとのことです。

ローマ人への手紙を理解する

1 主題

恵みのみ、信仰のみによるイエス・キリストの大きな救いです。

2 ローマ書の特徴

本書は手紙の形式をとった福音の一大論文です。義認、聖化、栄化のキリストの救い、全人類に及ぶ神の救いの遠大な計画、キリスト者生活などが組織的に記されています。

3 ローマ教会

過越祭に来てペンテコステ時に回心したローマからの来訪者たちが福音を携えて帰り、教会を建設。会員はユダヤ人、異邦人の両者から構成されていたと思われます。

4 執筆の年代と場所

第3回伝道旅行の折、コリントのガイオの家から発送（16・

23）。時は紀元56年頃でした。

5 梗概

①福音の序説（1・1～17）

②人類の罪（1・18～3・20） 異邦人の罪。ユダヤ人の罪。全人類の罪。

③義認論（3・21～5・21）

④聖化論（6・1～8・17）

⑤栄化論（8・18～8・39）

⑥ユダヤ人問題と全人類に及ぶ神の救いの計画

（9・1～11・36）

⑦クリスチャンの実際生活（12・1～15・33）

⑧終わりのあいさつ（16・1～16・27）

内村鑑三はローマ書を福音の大邸宅にたとえました。表玄関は福音の序説、本館は三館。第Ⅰ本館の第1号室は罪惡論、第2号室は義認論、第3号室は聖化論、第4号室は栄化論です。第Ⅱ本館は、ユダヤ人問題、選民・異邦人に及ぶ救いの大計画です。第Ⅲ本館は、キリスト者の実際の生活のすすめです。そして、裏玄関が終わりのあいさつとなります。

コリント人への手紙 第一を理解する

1 コリント市とは

コリントはギリシャのアカイア州の首都、エーゲ海に面する港町、交通の要衝の町、人口60万人を擁する大都市で、ギリシャ随一の「虚栄の都」を形成していました。「コリント人のように振舞う」とは、不品行を行うことを意味したほどでした。

2 コリント教会とパウロ

パウロは第2次伝道旅行の時、マケドニアで伝道が進み、使徒の働き18章に入り、1年半、腰を据えてコリントで伝道しました。その後、再三手紙を送り教会を指導しています。

3 執筆の事情

創立者パウロがコリントを去った後、教会内に様々な問題が起きました。偽りの教師たちの侵入、肉的な信徒たちのゲループ化、道徳的な退廃の侵入などです。教会は様々な形でパウロに助言を求めましたが、それに答えて書かれたのがコリント書です。

4 執筆の年代と場所

第1書はエペソにおいて書かれました。第3次伝道旅行の時、エペソ滞在3年の終わり頃（使徒19・20～31）、時は紀元56年から57年の春かと思われます。

5 本書の特色

ローマ書と対照的にコリント書は様々な教会の問題を並列的に叙述しています。分派、近親相姦（ごうかん）、信者の訴訟、偶像問題、婦人のかぶり物、御霊の賜物、異言、復活、貧しい聖徒への献金など、問題は多岐にわたっています。

6 主題

様々の問題のゆえ、「何ごとをするにも、すべて神の栄光を現すため」（10・31）。

7 梗概

①序言（1・1～9）

②教会内の分派（1・10～4・21）

③教会内の混乱（5・1～6・20）

④結婚の問題（7・1～40）

⑤偶像にささげる肉に関する問題（8・1～11・1）

⑥公の礼拝における問題（11・2～34）

⑦御霊の賜物について（12・1～14・40）

⑧「最も優れた賜物―愛―」（13・1～13）

⑨復活の問題（15・1～58）

⑩結びのことは（16・1～24）

コリント人への手紙 第二を理解する

1 執筆の時と場所

前、後書の間の隔たりが数ヶ月であれば57年の秋頃か。ピリピからでしょうか。

2 執筆の事情

前書後、愛弟子テモテを派遣（1コリント16・10）。しかし、問題は依然未解決。そこでパウロ自身の短期訪問後、一通の「涙の手紙」を書き（2・4）、テトスから大部分の人が悔い改めたという良い知らせを聞きます（7・8、9）。しかし、少数の悔い改めない者に次の訪問の時までに悔い改めるようにこの手紙

を書きました。ですから前半は悔い改めたことを喜ぶ語調、後半は厳しい語調となっています。

3 本書の特徴

パウロの喜びと憂い、感謝と怒り、苦しみと慰め、謙遜けんそんと高慢、自己主張と自己放棄、心配と希望などの錯綜さくそうした感情が見られます。時に文脈の飛躍、文章の断絶もあります。「胸も張り裂けんばかりの悲痛の叫び」(バークレー)を本書に聞きます。パウロへの批判と非難を中島彰師は記します。

① 気まぐれ者 (1・15～18)

② 信仰の高慢者 (1・24)

③ 自己推薦の自己吹聴者 (3・1、2、5・12)

④ 教え方の曖昧あいまい (4・2)

⑤ 金銭上怪しく疑わしい (8・20、21、12・15～18)

⑥ 弁舌はまずしく、話しぶりはなっていない (10・10、11・16)

⑦ 外見は弱々しく容貌は醜い (10・10、12・7)

⑧ 使徒権は疑わしい (11・5、12・11、12)

このように今日、パウロほどにボロクソに言われる牧師はいるでしょうか。

4 主題

「人間の弱さと神の力」「わたしの恵みはあなたに十分である」

(12・9)。

5 梗概

① 序言 (1・1～11)

② パウロの自己弁明と罪を犯した者への態度

(1・12～2・17)

③ 使徒職の光栄とその働き (3・1～6・10)

④ パウロの勧めと喜び (6・11～7・16)

⑤ 貧しい聖徒たち、とくにエルサレム教会への献金

(8・1～9・15)

⑥ パウロの使徒権の弁明 (10・1～12・18)

⑦ 結びのことは (12・19～13・13)

ガラテヤ人への手紙を理解する

1 ガラテヤ書的重要性

キリスト教をユダヤ教と分離させ、世界宗教とさせた原動力はガラテヤ書にありました。ガラテヤ書は、いつの時代でも教会を正しく導く「福音の羅針盤」でもありました。

2 ガラテヤ書の中心メッセージ

信仰のみによる救い、律法からの解放。磔殺たくも(2・20、5・24、6・14)と聖霊による新創造。

3 ガラテヤ書はいつ、どこで書かれたか

二説があります。北方のガラテヤと探るか、ローマの行政区でいう南方のガラテヤか。北方説を採ると、第3次伝道旅行中に執筆。南方説を取ると、49年頃開かれたエルサレム会議の後か、その前との説もあります。執筆場所はアンティオキア。

4 執筆の事情

モーセ律法や儀式を重んじる「異なつた福音」の侵入により純信仰が崩されたガラテヤ教会を痛み、憂えたパウロはこの手紙を書きました。

5 ガラテヤ書の特徴

鋭い語調、緊迫感、多角的な議論、多くの旧約聖書引用、多彩な比喩的表現などです。

6 梗概

①あいさつ―福音の基盤(1・1～5)

②自伝的弁証(1・6～2・21) 教会の深刻な事態。パウロの

回心と召命。回心後の宣教とエルサレム教会訪問。ペテロとパウロの衝突と義認・聖化の福音。

③教理的弁証(3・1～4・31) アブラハムの信仰。約束の宗教。信仰の時代の到来。かつては奴隷、今は神の子。キリストの形なるまで。女奴隷の子と自由の女の子。

④実践的弁証(5・1～6・18) キリスト者の自由。御霊による歩み。キリスト者相互の助け合い。蒔くことと刈り取るこ

との原理。福音の大文字―キリスト者の新創造―。

エペソ人への手紙を理解する

1 書かれた時と場所

ローマの獄中からの書簡。執筆の年代は、61年か62年頃。

2 あて先

云うまでもなくエペソ教会、あるいはエペソを中心とする回覧の手紙です。

3 エペソ書の執筆事情と特色

コロサイ教会に異端が侵入し混乱。その周囲のアジアの教会にも波及することを恐れ執筆したものとされます。冷たく陰鬱な牢獄から記された霊調高き「手紙の女王」です。

4 主題

「キリストの花嫁なる教会」。教会の召し、歩み、戦いが記されています。

5 エペソ書をひもとく鍵の言葉と思想

①「天上」(1・3、20、2・6、3・10、6・12)

②教会の四つのひながた 「キリストのからだ」(1・23、3・

6)、「神の宮」(2・19、22)、「キリストの花嫁」(5・32)、「神の軍隊」(6・11、13)

③三位の神の働き

④神の偉大な働き 「引き上げる力」(1・19、20、2・1)、「張り上げる力」(3・7)、「内に働く力」(3・16)、「立ち向う力」(6・10、11)

⑤重要な三つの動詞 「座す―天のところに―」(1・20、2・7)、「歩む―召しに従って―」(4・1、4・17、5・2、5・8、5・15)、「立ち向う―悪魔に対して―」(6・11、13、14)

6 梗概

①教会の召し(1・1～3・21) 救いの讃歌、引き上げ、近づけ、拡大する救い。

②教会の歩み(4・1～6・9) キリスト者の教会生活、個人生活、家庭と社会生活。

③教会の戦闘(6・10～6・24) 天上におけるキリスト者の霊の戦い。

ピリピ人への手紙を理解する

1 ピリピ教会の成立

発端は、エルサレム会議の後、パウロが「さあ…」と呼びかけ

ます(使徒15・36)。第1次伝道旅行は聖霊ご自身が、「さあ…」と呼びかけられました(使徒13・1、2)。パウロたちは御霊に行く先を禁じられ、アジアの西の果てトロアスへ。そこで、マケドニアの叫びを聞き、福音はヨーロッパ(マケドニア)へ。最初の町ピリピで伝道。牢獄の監守と家族全員も救われ、ピリピ教会は成立しました。

2 執筆の動機

ピリピ教会からの賜物への感謝と一致を強く勧め、律法主義への警戒をも込めて執筆されました。

3 執筆の場所と年代

ローマの獄中から。ピリピ伝道後約10年して、紀元61年頃この手紙は書かれました。

4 主題

「生きることはキリスト」(1・21)。内住のキリストの体験的な証し。

5 ピリピ書の特徴

個人的、体験的な手紙。はからずも飛び出すパウロの証しは魅力的。パウロの愛情が満ちた「愛情書簡」。罪とか言う言葉は一つも発見できません。文句なく「喜びの書簡」。合計16回「喜び」の文字。さらに、交わり(コイノニア)も豊かで、「キリ

ストにあつて、「主にあつて」が頻繁に出ます。福音（ユーアン・ゲリオン）の祝福も豊かです。

6 梗概

①感謝と祈り（1・1～11）

②パウロの身邊の事情と福音の前進（1・12～26） 投獄の結果。福音宣教の動機。パウロの死生観。

③勧めと模範（1・27～2・30） 福音にふさわしい生活。一致のすすめ。キリストの謙遜の模範。パウロの模範。テモテの模範。エパフロデイトの模範。

④警告とキリスト獲得（3・1～21） 律法主義に対する警告。絶大な価値キリストへのあくなき追求。反律法主義に対する警告。

⑤終わりの勧め（4・1～23） 一致の勧め。一般的勧め。贈り物への感謝。結びの言葉。

コロサイ人への手紙を理解する

1 執筆の場所と時

ローマの獄中から、紀元61年頃書かれました。

2 執筆の事情

コロサイ教会にグノーシス主義を背景に様々な異端が入って

きました。エバfrasはこの問題の処理にパウロを訪問し相談しました（1・7、8）。パウロはこの手紙を書き、ティキコにもたせてコロサイに送りました。

3 コロサイ教会とは

パウロがこの教会を築いたというより、パウロに代わって派遣されたエパfras（1・7）により建てあげられたと見ることができます。ピレモンはこの教会の重要な会員でした。

4 コロサイ書の特徴

グノーシス主義は霊は善、物質は悪という二元論です。物質は悪ゆえに万物の創造は最高神よりも一段と低い造物者（デミウルゴス）によるとします。肉体を持った人間は直接神と交わることができず御使いの仲介が必要であるとします。これに対しパウロはキリストこそ万物の創造者、保持者、教会のかしら、真の神、唯一の仲保者、知恵と知識の宝はこれのお方に隠されているということです。

5 主題

「神の奥義であるキリスト」（2・2）。

6 梗概

①入信のロマンス（1・1～8）

②成長の神秘（1・9～14）

③御子の奥義（1・15～23）

④キリストのしもべの秘訣（1・24～29）

⑤神の奥義、キリストの知識（2・1～23）

⑥奥義の知識の実生活（3・1～4・6）

⑦結び（4・7～18）

テサロニケ人への手紙 第一を理解する

1 テサロニケ教会とは

教会設立の事情は使徒の働き17章に。テサロニケはマケドニア州の首都、ローマ総督が駐屯する政治的重要都市。国の東西を結ぶ街道のある交通の要衝の地でした。

2 執筆の事情

執筆目的は、試練の中で堅く信仰に立つ信徒への感謝と励まし、さらにキリストの再臨に関しての正しい理解を与えるためでした。

3 執筆の場所と時

恐らくパウロのコリント滞在中。コリント伝道の初期執筆と思われるので、50年か51年に書かれたことには間違いありません。新約聖書中最も早くに書かれた手紙の一つです。

4 主題と特徴

「きよめと再臨」。ピリピ書と同じく、この手紙には叱責の言葉は見あたりません。パウロは最大の愛情をこの手紙に表現しています。一般的にマケドニア書簡と呼ばれるピリピ書、テサロニケ前後書は、「愛情書簡」とも呼ばれています。

5 梗概

①テサロニケにおける福音の前進（1・1～10）

②テサロニケにおける使徒パウロの宣教（2・1～16）

③使徒と教会の交わり（2・17～3・13）

④聖い生活に関するすすめ（4・1～12）

⑤再臨に関するすすめ（4・13～5・22） 再臨の栄光の出来事。再臨を待つ昼の子たち。

⑥聖めの成就のための祈りと挨拶（5・23～28）

テサロニケ人への手紙 第二を理解する

1 執筆の年代

第一の手紙が書かれた数ヶ月後でしょう。

2 執筆の場所

第一の手紙同様コリントで。

3 執筆の事情

前書の執筆後間もなく新しい事態が生じました。ある者たちは主の日がすでに来たと考えたり、世の終わりは近いと考え、働くことをやめ、落ち着かない生活を送っていました(3・11)。パウロは誤りを正し、怠惰な者への警告としてこの手紙を書いたのです。

4 主題

不法の者の出現と滅亡(2・8)。

5 梗概

①感謝と励まし(1・1～12)

②主の日についての教え(2・1～17) 主の日の時期。背教者と不法の者の出現とさばき。信じる者に対する救いと栄光。

③祈りと勧告(3・1～18)

テモテへの手紙 第一を理解する

テモテとテトスへの手紙は、教会に対する牧会的配慮や、監督や執事たちの資格を取り扱っていることから「牧会書簡」と呼ばれています。

1 テモテという人物

小アジアのリステラの人。パウロの第1回伝道旅行時に入

信。その後の伝道旅行、ローマの獄中にパウロと同行。パウロ釈放後エペソ牧会。伝承によれば監督となり、後に殉教。母はユニケ、祖母ロイスは共に敬虔なクリスチャン。パウロに代わって諸教会を問安。信仰によるパウロの真実な子テモテ。テモテも子が父に対するように、パウロと一緒に福音に仕えました。

2 この手紙が書かれた時と場所

パウロがローマの獄中からいったん釈放されたのは61年以後。数年伝道旅行をし、ネロの時代に殉教。執筆年代は早ければ63年頃、遅ければ65年頃。執筆場所はマケドニアと思われる。

3 この手紙の書かれた事情

エペソの教会には「違った教え」(1・3)が侵入、信仰の破船者、背教者もできました。そこでこの手紙を書き、年も若く経験も浅いテモテを励まし、牧会に関する種々の注意を与えたのです。

4 この手紙の特色

牧会に関わる様々な教えが記された「牧会書簡」です。特に監督や執事の資格、資質について実に具体的に記されています。

5 主題

「きよい心と健全な良心と偽りのない信仰から生まれる愛」
(1・5)。

6 梗概

- ① テモテに対する勧め (1・1～20)
- ② 礼拝についての教え (2・1～15)
- ③ 牧会者の資格について (3・1～16) 監督、執事、教会の性格について。
- ④ 危険な教えについて (4・1～16)
- ⑤ 牧会者の心得 (5・1～6・21) 全教会員、やもめ、長老、奴隸、異端、金銭、神の人テモテ自身、富んでいる者について。

テモテへの手紙 第二を理解する

1 執筆の時と場所

ネロは紀元68年没。執筆年代はその少し前の67年頃。64年7月のローマの大火災後クリスチャンへの大迫害。パウロも再逮捕されローマ市街で断首されたと言われています。時は紀元68年頃、執筆場所はローマの獄中。

2 この手紙の特色

牧会者としてのテモテに対する個人的な励ましや忠言が主。

パウロの書いた最後の手紙であることは間違いありません。

3 主題

「苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務めを十分に果たしなさい」(4・5)。

4 梗概

- ① テモテに対する励まし (1・1～2・26)
- ② 終わりの日についての警告 (3・1～17)
- ③ テモテに対する最後の命令と依頼 (4・1～22)

テトスへの手紙を理解する

1 執筆の時と場所

パウロはいったん釈放後、テモテをエペソに、テトスをクレタ島に牧会者として残します。65年頃、執筆はニコポリスで。

2 執筆の事情

クレタの教会に様々な問題が発生。パウロはテトスを励まし偽教師を警戒する必要があると感じ執筆。

3 テトスという人物

ギリシヤ人。パウロの伝道によって回心。パウロの信仰の子。テモテ同様パウロの片腕的器。

4 特色

牧会書簡の一つで大筋はテモテ前書と似ています。

5 梗概

①テトスに対する勧め(1・11～2・10) 長老、監督の資格。

偽教師への警戒。働き人の心得。

②キリスト者生活のあり方(2・11～3・11)

③個人的な願いと祈禱(3・12～15)

ピレモンへの手紙を理解する

1 書かれた時と場所

獄中書簡の一つ。コロサイ書と同じ年頃。むろん執筆の場所はローマの獄中です。

2 ピレモン書物語

ピレモンの奴隷オネシモは主人のものを盗んで逃亡し、ローマへ。どのような事情であったか、彼は獄中のパウロに会い回心。当時の習慣によれば、奴隷はあくまでも主人の所有物。主人の物を盗んだ奴隷は罰として殺されるのが常でした。パウロはピレモンにオネシモのため切々と執り成し、彼を兄弟として受け入れて欲しいと記します。コロサイ書執筆の機会を生かしこの手紙を書き、オネシモの身柄と共にティキコに渡しました。

3 ピレモンという人物

本書はピレモンへの個人的書簡。ピレモンはパウロによって回心(19)。家庭を開放して集会をしていました(2)。パウロに喜びと慰めを与え、聖徒たちの心は彼によって力づけられ、爽快にさせられました。実にさわやかなクリスチャンでした。

4 特色

内住のキリストに生きるパウロが記した、聖書中、最も感動的な小書簡。

5 主題

執り成し。「私を迎えるようにオネシモを迎えてください」(17)。彼の負債(デメリット)は我に。私の功績(メリット)は彼に。

6 梗概

①感謝と祈禱(1～7)

②オネシモのためのパウロの執り成し(8～25) 執り成すパウロ。執り成されるオネシモ。執り成す理由。執り成す方法。結びの言葉。

(※「牧羊者・二〇〇五年度Ⅳ巻」に掲載されたものを、一部再編集して掲載しました。)

聖書

ヨハネ19・23〜30

タイトル

十字架による新しい絆

暗唱聖句

ご覧なさい。あなたの母です。

ヨハネ19・27

目 標

神との関係、人との関係を変える十字架の力を知る。

導入

(後藤 真)

今朝は受難週の礼拝です。イエス様の十字架の苦しみを思い出しましょう。そしてそんなに苦しんでまでも、わたしたちを救い、神様の子どまとしようと思われた、神様とイエス様の愛をいっぱい受け止めましょう。

今日読まれた聖書の箇所は、イエス様が十字架にかけられた場面です。ここでイエス様が言ったことばから大切なことを受け取りたいと思います。

服を分けた兵士たち

イエス様を十字架につける仕事をしたのは、ローマ兵たちでした。十字架刑の手伝いといういやな仕事をした兵士たちは、十字架にかけられた人の服を持って帰ってよいことになっていました。

「そんな服いらないよ」と、いまのみなさんなら思うでしょう。でもそのころ服はとても値打ちがあるものでした。兵士たちにとって服を分けることはごほうびだったのです。

兵士たちはいつも通り、自分たちの当たり前を取り分としてイエス様の服を分けました。それは自分の考えでしたことでした。でも旧約聖書の詩篇には

「彼らは私の衣服を分け合い、私の衣をくじ引きにします」

と、預言されていました。この残酷な十字架も、兵士たちが服を分けた行いも、神様の思いの中にあつたことでした。

もちろん兵士たちは聖書を知らないのです。そんなことには気づかないでしょう。でも、聖書に詳しいイスラエルの人々、祭司や律法学者たちも、そんなことにはお構いなしでした。彼らは聖書のことばには興味がなかったのです。ただイエス様を十字架にかけたかったのです。

ご覧なさい、あなたの母です

そんな人たちと反対に、イエス様の十字架を見守っていた人たちがいました。イエス様のお母さんのマリア

と、何人かの女の人たち。そして十二弟子のひとり、ヨハネでした。

イエス様は、マリヤに育てられて大きくなりました。マリヤは大切なお母さんでした。自分が十字架で死んでしまった後、マリヤのことをどうしようかと考えたのでしょうか。そして、ヨハネに

「女の方、ご覧なさい。あなたの息子です」

と言い、マリヤに

「ご覧なさい。あなたの母です」

と言いました。イエス様はヨハネに「マリヤのことを頼んだよ」とお願いしたのです。それでヨハネはマリヤを引き取ってお世話するのです。

十字架の上で自分がいちばん苦しいのに、お母さんのことを考えたイエス様はすごいなあと思います。また、マリヤを引き取ったヨハネも立派だなあと思います。でもこのことにはそれ以上に大切な意味がありました。

それは、わたしたちは自分の家族だけではなく、神の家族というもっと大きな家族になれるということです。イエス様を信じて、十字架で罪赦された人たちは、神の家族としていっしょに生きていくことができるのです。

わたしたちは決して一人ぼっちになることはありません。

イエス様を信じて罪赦された人は、みんな神の家族であり、兄弟姉妹だからです。教会も神の家族です。

完了した

イエス様は「完了した」と言い、十字架の上で死にました。完了したというのは難しいことですが、十字架の上でやるべきことが全部終わったということです。神様の計画がすべて行われ、旧約聖書に預言されていたこともすべて行われた。イエス様はそのことが分かって「完了した」と言いました。

それだから十字架は失敗ではありません。足りないものも一つありません。この十字架は完璧に成功し、救いの道が開かれました。そしてわたしたちが神の家族になる道も開かれたのです。

あとはみなさんがこの十字架を信じることです。そして来週お話を聞く復活を信じることです。そして、イエス様が十字架で成し遂げてくださった救いの道をいっしょに歩んでいきましょう。

♪両手いっぱい愛♪(PW13、ホ146、イン41他)

聖書 ヨハネ19・23～30 テーマ 十字架による新しい絆

序論

(石田高保)

十字架の周りには様々な立場の人がいました。祭司長たちのような反対者、兵卒たちのような無関心な人、女性の弟子たちのような主を愛する人。主はそれぞれの人々に深い関心と愛を向けておられ、最後の一息まで人を愛することをやめなさいませんでした。

一、無関心な人々

イエス様はクリスマスに地上に降る前、天においてはどのような状態でおられたのでしょうか。それは神の子として父なる神と一体となつて万物を創造し、人類の歴史を導いておられました。神の栄光がイエス様を包み、無数の天使たちが仕えていました。全知全能の主が人間となるとき、神の子として持っていた至高の位も栄光もあえて投げ捨て、丸裸で生まれてくださいました。では地上の生涯を終えるときはどうであつたのでしょうか。(23、24)にあるように、僅かな所有物であつた着る物でさえ、みな剥ぎ取られてしまわれました。「主は富んで

おられたのに、あなたがたのために貧しくなりました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによつて富む者となるためです」(Ⅱコリント8・9)、私たちを霊的に富む者とするため、永遠の命を与えるために、主は自ら貧しい者、自分の命を捨てる者になつて下さいました。

イエス様を十字架につけた兵卒たちは、何に関心を向けているのでしょうか。彼らはイエス様の着ていた物にしか関心がありませんでした。あろうことかそれで賭け事に興じていました。人類の歴史において、人間の救いにおいて最も重大な出来事であつたにもかかわらず、そして最も近くにいたにもかかわらず、イエス様に目を向けるところか、浅ましくもこの世のことに夢中になつていたわけです。これはまたイエス様を信じる前の私たちの姿でもあるのではないのでしょうか。救いはすぐ近くにあるのに人々は知らないだけなのです。無関心なのは、本当のことを知らないだけなのです。何とかして身近な人から始めてイエス様のことを知らせましょう。そんな彼らのことも主は無関心ではなく、「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっているのです」(ルカ23・34)と祈っておられます。主が息

を引き取られたとき、彼らの隊長だけは「この方は本当に神の子であった」（マルコ15・39）と言って、イエス様の本当の姿を悟っています。主は無関心な人々のことも諦めずに祈り、愛し続けられたわけです。

二、主を愛する人々

十字架のそばにいたのは兵卒たちだけでなく、弟子たちの姿もありました。ここには少なくとも5人の名前が挙がっています。そのうち4人が女性で、男性は〈愛する弟子〉と書かれたヨハネで、十二弟子のうちイエス様の側にいたのは彼ひとりだけでした。イエスさまの近くにいたら類が及ぶかもしれないという恐れがあったのに、彼らはイエス様の側に居ないではいられませんでした。主は十字架に釘付けになって断末魔の苦しみにおられたにもかかわらず、そばにいる母マリヤをいたわって言われます。〈女の方、ご覧なさい。あなたの息子です〉、お母さんに向かって「女の方」と呼びかけるのは、イエス様はキリストという特別な使命に生きていたために、えこひいきすることなく、親子の情を聖別しておられたからでしょう。けれども残してゆく母の身の振り方をちゃんと考えておられました。弟子のヨハネに向かっ

て、〈ご覧なさい。あなたの母です〉、こう言って主は弟子のヨハネに母の老後を託しました。

これはいったい何を意味するのでしょうか。一つはイエス様が年老いたお母さんの面倒を弟子に任せることによつて、子どもとしての責任を果たしたと言えます。「あなたの父と母を敬え」という十戒を最期の時にも実行されました。もう一つはヨハネと母マリヤが親子になることによつて神の家族が始まったと言えます。ヨハネはマリヤを自分の家に引きとつて自分の母として仕えることになりました。主は信仰による家族を創造したわけですから。イエス様がヨハネと母マリヤを取り持つて、新しい家族を始められました。教会というところもまさに同じで、イエス様の取り持つ「神の家族」です。

結論

「だれでも神のみこころを行う人、その人がわたしの兄弟、姉妹、母なのです」（マルコ3・35）。主を家庭や教会、聖徒の交わりに迎える時、そこに神の家族が創造されます。実際の家族であれば再創造されると言ってもよいでしょう。この新しい絆をあたためて行きましよう。

研究資料

(小平徳行)

十字架の場面である。本福音書では「十字架上の七言」の第三、五、六言が記録されている。今回のテーマは特に第三言に関わることであるが、他の所も取り上げ、本福音書独特の十字架の場면을味わいたい。

テキスト

23〜24 兵士たちは：その衣を取って四つに分け 当時の習慣として、処刑に当たった兵士たちは、特別の報酬として囚人の着物を取ることが許されていた。本福音書では上着と下着を区別して説明している。「その衣」とは上着であり、縫い目に沿って四等分し、下着は縫い目のない一枚織りであり、裂いてしまうと役に立たなくなるためくじ引きにされた。聖書が成就するため 兵士たちがこのようにしたのは、彼らの意思を越えた神のご計画であった。彼らは自覚せずに預言を成就した（詩篇22・18）。この出来事はイエスの十字架に対するこの世の無関心、無感覚を象徴している。

25 イエスの十字架のそばには 兵士たちとは対照的にイエスの十字架のかたわらには敬虔な女性たちが立って

いた。本福音書では遠くの方（マタイ27・55）ではなく近くにたたずんでいた女性たちの姿が描かれている。母とその姉妹 この女性が誰であるかは知られていないが、他の福音書と照らし合わせると、マルコでは「サロメ」（16・1）、マタイでは「ゼベダイの子たちの母」（27・56）と呼んでいる女性であることが考えられる。クロパの妻マリア この女性も知られていないが、彼女たちはイエスがガリラヤにおられた時から、いつもイエスに従って仕えていた（マルコ15・41）。

26〜27 愛する弟子 ヨハネのこと。イエスの十字架に男の弟子が立ち会ったことは本福音書にのみ記されている。女の方、ご覧なさい。あなたの息子です イエスは十字架の苦しみの中でも、母マリアを思いやり、弟子に託し、子としての分をつくした。イエスには弟たちがいたが、まだイエスを信じておらず、イエスの行動に好意的ではなかった。またこの時、彼らはエルサレムには来ておらず、わが子の十字架刑を見て必死で耐えている母マリアを支える者が必要だった。まさにマリアはシメオンの言葉のごとく剣で胸を刺し貫かれるような心境であった（ルカ2・35）。これは単なる家族愛を示した出来

事ではなく、重要な真理を象徴するものである。イエスの十字架によるみわざは、贖^{あがな}われた者の新しい交わりを創造するものであった。それはキリストにある神の家族としての交わりである。

28 わたしは渇く ヨハネはこの言葉に旧約の預言の成就を見出した(詩篇22・15)。これは肉体的な渇きとともに、霊的な渇きでもあった。神との交わりが全く断たれてしまったゆえに、絶え入るばかりに神を慕い求める声であった(詩篇42・2、63・1等)。私たちはキリストの贖いゆえに、いつまでも渇くことのない恵みにあずかることができる(ヨハネ4・14、6・35)。

29 イエスにぶどう酒を差し出したことに関してはマルコの福音書では二つの記述がある。すなわち刑場に着いた時に差し出された没薬を混ぜたぶどう酒(15・23)と十字架上のイエスに差し出された酸いぶどう酒(15・36)である。前者は当時死刑囚に与えていた麻酔薬と考えられ、後者はラテン語で「ポスカ」と呼ばれ、ぶどう酒から作った酢を水で薄めた兵士たちの飲み物であった。前者は十字架刑の苦痛を軽減することが目的であったが、イエスは飲むことを拒まれた(15・23)。本書ではこの後

者について述べている。これは渇きをいやすためではなく、むしろ渇きを激しくするものであり、ここに兵士たちの残酷さが表れている。これも預言の成就と言える(詩篇69・21)。**ヒソブの枝** これは茎を束にしてユダヤ人がきよめの儀式のために用いた(レビ14・4・7、詩篇51・7、ヘブル9・19)。これを十字架の処刑場でローマの兵士が手にしていたのは不思議である。しかしイエスがまことの過越の小羊として、ほふられる時にヒソブが用いられたことは、出エジプトの過越の時に小羊の血を入口の門の柱に塗り付けるために、これが用いられたことを連想させる(出エジプト12・22)。

30 完了した(ギ)テレスタイ これは息を引き取る最後の瞬間がきたという断末魔の叫びではなく、旧約の預言を成就して贖いを成し遂げた勝利の叫びである。**霊をお渡しになった** この死がイエスの意志に基づく自発的なものであったことを示唆している。

参考図書 村瀬俊夫「ヨハネの福音書」『新聖書註解・新約1』、山下正雄「ヨハネの福音書」『実用聖書註解』(以上のちのことば社)(いのちのことば社)、「ヨハネ伝講義下」高橋三郎(待晨堂) 他

聖書

ヨハネ20・11～18

タイトル

復活の主との出会い

暗唱聖句

女の方、なぜ泣いているのですか。

ヨハネ20・13

目標

悲しみの涙を取り除く、復活のキリストに出会う。

導入

(後藤 真)

今日はイースターです。最近コンビニやテーマパークでもイースターのイベントがあるので、イースターということばを聞いたことがある人は増えました。でも、イースターの本当の意味は、まだそんなに知られていません。イースターというカタカナよりも、日本語で復活祭と言ったほうがわかりやすいと思います。復活祭はイエス様がよみがえられたことをお祝いする日なのです。

空っぽのお墓

先週はイエス様が十字架で死なれたことをお話ししました。イエス様のからだはすぐに十字架から降ろされ、急いでお墓に入られました。夕暮れになると安息日にな

り、お墓のお世話などができなくなるからです。安息日にはしてもよいこととしてはいけないことが細かく決まっていたのです。

イエス様が十字架で死なれたのが金曜日。安息日は土曜日。そして安息日が終わった日曜日の朝早く、マグダラのマリアたちはイエス様のお墓に行きました。ところが、行ってみるとお墓は空っぽ！ イエス様のからだを巻いていた布だけがそこに置かれていました。

マリアはお墓の外で泣きました。イエス様が十字架で死なれただけでも悲しくてつらいのに、からだまで盗まれたと思ったからです。泣きながらお墓の中をのぞくとそこに白い服を着た天使が二人いました。天使は、

「女の方、なぜ泣いているのですか。」

と、マリアに聞きました。マリアは答えました。

「だれかが私の主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私には分かりません」

マリアにはまだイエス様がよみがえられたことが分からなかったのです。

「マリアよ」

マリアが泣きながら後ろを振り向くと、そこにだれかが立っていました。マリアはそれがだれだか分からないで、お墓のあった園の管理人だと思ったのです。

「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか」

と、その人に聞かれて、マリアは言いました。

「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。私が引き取ります」

その人は呼びかけました。

「マリア」

マリアはその人がイエス様だとやっと分かりました。そして振り返って、昔から呼んでいた呼び方でイエス様を呼びました。

「ラボニ」

イエス様にすがりつこうとするマリアに、わたしにさわってはいけない（すがりついてはいけない）よ、とイエス様はお話しました。よみがえられたイエス様は、やがて父である神様のところに行かなければならないのです。マリアはイエス様にそのことを伝えるようにと言わ

れ、弟子たちのところに行きました。そしてイエス様に会ったこと、イエス様の話したことを伝えたのです。

マリアも、わたしたちもイエス様といっしょにいると安心します。イエス様がいっしょにいないと思うと心配になり悲しくなります。イエス様は歴史の中では二千年も前に十字架で死んだ人です。もしそれで終わりなら悲しいだけです。でもイエス様はよみがえられました。よみがえられたイエス様は今も生きておられ、わたしたちのお祈りを聞いてくださるのです。

マリアがはじめイエス様になかなか気づかなかったように、「死んだ人間がよみがえるなんて絶対ない！」とはじめから疑ってしまうと、よみがえられたイエス様に気づきにくいでしょう。イエス様が今も生きていると信じてみましょう。そして、生きているイエス様を礼拝したり、お祈りして話しかけてみましょう。そうすればイエス様が生きていることが分かるかもしれませんね。そしていっしょに心から復活祭、イースターをお祝いしましょう。

♪主は今生きておられる♪（PW49）

聖書 ヨハネ20・11～18 テーマ 復活の主との出会い

序論

(高橋頼男)

十字架に愛するお方の死を確認し、そのなきがらがヨセフの墓に納められるのを見届けたマグダラのマリアは、安息日が明ける日の朝、まだ暗いうちから墓に急ぎました。墓に着くと墓は空っぽでした。空虚な墓の外で泣いているマリアに復活の主イエスが現れ「マリア」と呼びかけられました。マリアは振り返って主を認めると、悲しみに押しつぶされていた心に喜びが爆発し「ラボニ」と叫んで主にすがりつくこうとしました。復活の記事は喜びに溢あふれています。甦よみがえられた生ける主にお出会いは、悲しみを喜びに絶望を希望へと一気に転換する出来事です。

一、悲しみの涙と悲嘆(11～15)

復活の朝、墓に急いでいたマグダラのマリアは、ひたすらイエス様のなきがらを求めていました。なんとしてもイエス様のお体に触れ、自分の手で心を込めて葬りの備

えをしたかったのです。それは、愛するお方を失った痛手を癒いやすためのグリーフ(深い悲しみを受容するための心の過程)であつたかもしれません。ご遺体を目の前にして、お別れのための時間が欲しいと切に願いました。もし復活が無かつたとしたら、愛する者の死は過酷です。私たちはありつただけの涙を流し、その悲しみに身も心も任せて悲嘆に暮れるほがありません。この時、マリアは生きておられる方を死人の中に求め、復活された主を空虚な墓に見出そうとしていたのです。主は甦よみがえられたのです、主は生きておられます。そして、マリアのかたわらに立たれます。しかし、絶望に打ちひしがれた心、悲しみの涙に曇ったマリアの目には、甦よみがえって生きておられる主、マリアのそばに立たれる主を認めることが出来ませんでした。私たちもひどい悲しみや痛み、苦しみの中に全く見捨てられた者のように感じる時があるかもしれません。しかし、私たちは見捨てられず、主は生きておられます。

二、悲しみを喜びに変える復活の

キリストとの出会い(16～17)

主は再びマリアに呼びかけてくださいました。「マリア」と懐かしい声でいつものように呼びかけてください

ました。この時マリアははじめて反応しました。主イエスとの親しい交わりを持っていましたから、そのやさしいみ声を聞き分けることができました。振り向くと、そこに甦って生きておられる主がおられました。マリアは喜びのあまり〈ラボニ〉と叫んで主にすがりつくようしました。マリアは今、甦って生きておられる主を拝して、全く変えられてしまいました。これまでの主イエスとの交わりが、復活の主の呼びかけに応答することを可能にし、生ける主との新たな親しい人格的な出会いと交わりに導いたのです。キリスト復活の事実が目が開かれ、生ける主との出会いが導かれるなら、人の心と生き方は一変します。すべての事情と状況が直ちに変わってしまうのです。不信と絶望、落胆の中にあつたあの弟子たちを変えたのも、四〇日間、彼らが復活の主に繰り返して何度も何度も出会いし、彼らが、主が生きておられることをもはや疑うことが出来ない者とされたからです。主のご復活は、彼らに起死回生の転機をもたらせ、その後の彼らの生き方を変えました。さらに、ペンテコステのご聖霊は、甦りの主が内に生きておられることを鮮明にさせました。主は生きておられる、わがうちにえられる。

その時、内に命が溢れだし、信仰の躍動を感じ、生きる勇氣と力が湧いてきます。この主を仰ぎ、崇め、賛美し、生活のあらゆる場面で歌い続けましょう。

三、喜びの源である復活のキリストを伝える

(17、18)

主が復活され、生きておられることを知ったマリアは、もうじつとしていたことが出来ません。抑えがたい喜びと興奮の中に駆け出して行きました。一刻も早く、仲間にごこの出来事を伝えるためです。同時に、マリアにはまだどこかに恐れがあつたかもしれません。甦られた主にお会いしたことが現実のように思われず、何か夢を見ているように感じるところがあつたかもしれません。しかし、〈わたしの兄弟たちのところに行つて…伝えなさい〉と復活の主が言われたお言葉は、はっきりと耳に響いていました。そのお言葉に従い、〈行つて、弟子たちに「私は主を見ました」と言い、主が自分にこれらのことを話されたと伝えた〉のです。

結論

生きておられる主との出会いを通し、喜びに溢れて復活のキリストを宣べ伝えるものとならせて頂きましょう。

研究資料

(中島啓二)

テキスト

11 マリアは墓の外にたたずんで泣いていた。その涙は、死そのものの悲しみ(11・31参照)に加え、その遺体が無くなった(奪われた)と思っていた)ことによる悲しみのゆえであった。時代や地域を問わないことだが、ユダヤの文化でも遺体に対する無法(蹂躪^{じゅうりゃん}など)は御法度^{ごはつと}であり(Iサムエル31章参照)、通常、墓荒らしでさえ遺体そのものには手をつけなかったと言われる。

12 白い衣を着た二人の御使い 白い衣は天的な存在であることの象徴であると共に、服喪の色である黒との好対照を示し、復活を象徴するものと言える。

13 だれかが私の主を取って行きました… 遺体が盗まれたと思ひ込み、よみがえりの発想が全くなかったマリヤは、天使を見ても、悲しみから解放されなかった。

14 うしろを振り向いた。そして、イエスが立っておられるのを見たが、それがイエスであることが分からなかった。エマオ途上の弟子たちは「心が鈍」(ルカ24・25)のため、イエスだとすぐには気づかなかった。マリ

アの目を曇らせたのも、涙だけではないだろう。

15 園の管理人だと思つて 墓が園の中にあった(19・41)ことが勘違いの理由だろうが、園の管理人であつても、墓を開けて遺体を移すなどあり得ないことである。けれどもマリヤは墓にもすがる思いで、**あなたがあの方を運び去ったのでしたら…**と言ったのであろう。

16 マリア それが主イエスだとマリヤが気づく瞬間は、人格的な呼びかけによつてもたらされた。イエスは「良き羊飼ひ」としてご自身の羊を名前で呼ばれたのである(10・3)。彼女**は振り向いて**「羊たちは…彼(＝羊飼ひ)の声を知っている」(10・4)。ヨハネが強調するのは、復活の主との個人的、人格的な関係性である。マリヤはすでに一度ふり向いていたはずである(14)。だが、その時はそれがイエスだと気づかず、おそらく視線を戻していた。それが今、自分の名を呼ぶ懐かしい声で我に返り、再びふり返ったのであろう。**ラボニ**ヘブル語とあるが実際はアラム語(両者は親戚のような関係)で「先生」の意。一般的に「ラビ」よりも大きな尊敬を込めた呼び方だという説と、対照的により親しみを込めた呼び方だという説もある。いずれにせよ重要なこ

とは、マリアがこれまでもいつも、イエスに対しこのように呼びかけていたであろうと言うことである。

17 わたしにすがりついてはいけません これはイエスがトマスに触ってみよと促されること(27)と矛盾するようにも思えるがそうではない。口語訳では「わたしにさわってはいけない」と訳されているが、ここでは「触る」という動作よりも「すがりついている」という状態(動作の継続)に焦点がある。すなわち、マリアはイエスを「離さなければならぬ」ということである。それは、わたしはまだ父のもとに上っていない からである。この「上って」は完了形であり、後の「…方のもとに上る」が現在形であることと合わせ、イエスが今、昇天の途上にあることを示す。復活のイエスは地上にとどまり続けるのではなく、やがて(すぐに)天に昇られる。そうすれば今までのように肉眼で見、手で触れることはできなくなる。しかしイエスがかつて言われたように、それは彼らに「益」(16・7)をもたらすのである。わたしの兄弟たち なぜ弟子たちがイエスの兄弟であり得るのかが続いて示される。わたしの父であり、あなたがたの父である方、わたしの神であり、あなたがたの神であ

る方 「父なる神との関係」において、イエスのそれは三位一体における永遠の交わりであり、弟子たちのそれとは区別される。けれどもこの区別は「排斥」ではなく、その正反対の「包含」がここにはある。すなわち御子のおかげで弟子たちは、本来ならそうは呼べないお方を「わが父、わが神」と呼ぶことができる者とされたのである。「イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥とせず…」(ヘブル2・11)。そこに圧倒的な愛とゆるしがある。ルツ1・16「あなたの民は私の民、あなたの神は私の神です」を想起するかもしれない。ナオミとルツの間に新しい家族関係が結ばれたように、主が兄弟姉妹と呼んでくださる者同士も、新しく兄弟姉妹とされ、ここに教会という新しい家族が誕生する。ルツ記においては、ナオミの神のもとへ来ることを選んだのはルツであったのに対し、ここでは救い主の方から私たちの所へ来てくださり、その生涯と死、復活と昇天という一連の救いのわざを通して、私たちを神の民としてくださったのである。

参考図書 注解書 Beasley-Murray (Word), Bruce (Eerdmans), Lindars (New Century Bible), その他 The IVP Bible Background Commentary: NT 他

聖書

ヨハネ21・15～19

タイトル

わたしを愛するか

暗唱聖句

あなたは、この人たちが愛する以上に、

目標

わたしを愛していますか。ヨハネ21・15

罪を赦し、回復させて下さる主を知り、
主を愛する者となる。

導入

(土屋開夫)

先週は、イエス様が十字架の死とヨミからよみがえられたイースターでしたね！ よみがえられたイエス様は、まずマグダラのマリアさんに出会ってください、その後、弟子たちに会いに来てくださいました。死んでしまったと思っていたイエス様がなんと復活して、またお会いできたのですから、弟子たちは物凄く喜びました！

でも…、ペテロさんの心には、大喜びの気持ちと同時に、「申し訳ない…会わせる顔が無い…」という気持ちがありました。なぜなら、イエス様の事を「知らない」と三度も言ってしまったからです。

後ろめたいペテロ

ペテロさんは弟子たちの中で一番年上で、自分では「一

番の弟子だ」と思っていました。そして「私が一番イエス様を愛しているぞ。イエス様のためなら何でもするぞ。どこまでもついて行くぞ」と思っていました。

そして最後の晩餐(食事)の時、「主よ。あなたと一緒になら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」(ルカ22・33)と言いました。

けれどもイエス様が捕らえられた時、ペテロさんは遠くから隠れてついて行きましたが、人から「お前もイエスの弟子だろう」と言われた時、自分も捕まるのが恐くなって、「いや、私はその人を知らない」と三度も言ってしまったのです。

イエス様はどれほど悲しかったでしょう。皆さんも、もし大の仲良しの親友から、皆の前で「こんな子、私、知らない。別に友達じゃないし」と言われたら、とても悲しいでしょう。イエス様も本当に悲しかったのです。

だからペテロさんは、イエス様がよみがえられた事は物凄く嬉しいけれど、「イエス様を裏切った私には、もう弟子の資格は無い…」と思ったのです。「私は最低だ。一番弟子どころか、口ばかりのダメな奴だ。イエス様も、もう私を弟子だなんて思っておられないだろう。もっと

他に、私なんかよりもっと意志が強くて、もっとふさわしい人がいるだろう。私はまた前のように魚を捕る仕事でもしよう。」

もう一度

ところが一匹も魚は獲れませんでした。すると遠くで「舟の右側に網を打ちなさい。そうすれば捕れます。」という声がしました。なんだか懐かしい声です。そして、その通りしてみると魚が物凄くたくさん捕れました。すると他の弟子が「あれはイエス様だ！」と言いました。「ええ？」ペテロさんは恥ずかしくて、慌てて服を着て湖に飛び込みました。

イエス様は魚とパンを焼いて食事の用意をしてくれていました。そしてイエス様は、ペテロさんに話しかけられました。ペテロさんの心、気持ちをもう一度、改めて聞きたかったのです。

「あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか。」

ペテロさんは勿論、イエス様を愛していなかったのはありません。イエス様のような大きな強い愛じゃなかったかも知れませんが、でもイエス様の事を愛してい

るのは本当でした。ただ恐れる心の方が勝ってしまったのです。

ペテロさんは答えました、「はい、主よ。私があなたを愛していることは、あなたがご存じです。」

そしてイエス様は「わたしの子羊を飼いなさい。」と言われました。つまり「ペテロ、あなたにもう一度、弟子としての役目を与えますから、もう一度わたしの弟子になりなさい。もう一度、わたしに従ってください。」というお気持ちです。

まとめ

私たちも本当にペテロさんの様だと思います。イエス様を信じていると言いながら、イエス様の事をお友達に言えなかったり、イエス様の後についていけない弱い者です。でもイエス様は何度も赦して、何度も聞かれます。あなたの名前を個人的に呼んで、「あなたは、わたしを愛しますか」と。そして「わたしに従ってください」と。

♪もうふりむかない♪ (PW18、イン86)

聖書 ヨハネ21・15～19 テーマ わたしを愛するか

序論

(水川武志)

ガリラヤ湖畔には、主が弟子たちと食事をした岩（主の食卓）を包み込むようにして、聖ペテロの召命教会が建っています。教会のすぐ前には、半円形の野外ステージがあります。私はかつて、ここでイエスがペテロに「あなたはわたしを愛していますか」と語りかけた事を思い、しばし祈りの時を持ちました。「たとえ、あなたと一緒に死ななければならぬとしても、あなたを知らないなどとは決して申しません」（マタイ26・35）と誓ったペテロの失態を、私たちも知っています。麋^{よみがえ}りの主は、他の弟子たちの前で、ペテロの再召命の時を用意されたのです。

一、イエスは、シモン・ペテロに言われた

主は食事を済ませ、くつろぐ弟子たちの前で、ペテロに語りかけられました。（あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか）。新改訳2017の欄外には、イエスが「愛」（ギ）アガパオー）で語りかけ、

ペテロは「愛」（ギ）フィレオー）で答えたと解説されています。〔ギ〕アガパオー（神的愛）と〔ギ〕フィレオー（人情・友愛）だと説明されてきました。十字架前のペテロは、どの弟子よりも強い愛をもって、主を愛していると確信していました。最後の晚餐で「鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います」と予告されたとおり、ペテロは、主を裏切ってしまった。自責の念に苦しむペテロに、再起の機会を与えようと、主はご配慮くださったのです。「ペテロお前はわたしを〔ギ〕アガパオーで愛していますか?」「主よ、私が〔ギ〕フィレオーで愛していることは、あなたがご存じです」。同じ言葉で二度繰り返され、三度目には、「ペテロお前はわたしを〔ギ〕フィレオーで愛するか?」「そうです。私が主を〔ギ〕フィレオーで愛しているのは、おわかりです」。ペテロは、三度も繰り返し尋ねられましたが、怒らず、「心を痛め」ました。これは真実の悔い改めの証拠（バックストン）です。「主よ、あなたはすべてをご存じです」、ペテロは主の御前にすべてを打ち明け、すべてを明け渡したのです。主が求められたのは、この全権委譲です。ペテロは自分のことは、自分よりも主の方がよく知っておられる事を、

悟ることができました。

二、わたしの羊を飼いなさい

甦りの主は、真の悔い改めに導かれた者に「わたしの羊を飼いなさい」と任職の油を注がれたのです。「羊」は、主にとって最も価値あるものです。「わたしは羊たちのために自分のいのちを捨てます」(10・15)。今、ペテロの手に、この尊い羊を委ねるということです。罪深さと弱さを自覚する者に対して、復活の主は、ここまで信頼を置いてくださるのです。「神は、キリストによって私たちをご自分と和解させ、また、和解の務めを私たちに与えてくださいました。すなわち、神はキリストにあつて、この世をご自分と和解させ、背きの責任を人々に負わせず、和解のことを私たちに委ねられました」(Ⅱコリント5・18・19)。ペテロをこのように信任されるお方は、あなたをも教会学校教師として、信任してくださいます。ペテロのように、高慢な心を捨て去り、全権を主に明け渡して、主に仕えることが大切です。主が命がけで愛されている子どもたち一人一人の魂を、私たちは愛をもつて養って参りましょう。

どのように子どもを愛したらよいのか、戸惑いを覚え

ている教師もおられるかも知れません。『実を結ぶ教会学校』(金井由信著)の第三章『CS教師の心得』を読む事を勧めます。勿論、「愛は神から出ているのです」(Ⅰヨハネ4・7)とありますから、神に祈ることは言うまでもありません。

あるCS教師は、話すのが大の苦手で、1週間良く準備して来られるのに、分級で話し出すと5分で終わってしまうのです。努力を重ねても5分話すと、もう種が切れてしまうのです。ところが彼の祈りには力があり、生徒が次々に増えていくのです。生徒のために涙を流して祈る祈りは、生徒の魂に共鳴して、魂を生かしていくのです。この教師は、ペテロがこの時に体験した恵みを、自分のものとする事ができたのだと思います。

結論

張り切ってCS教師を励む中で、やめていく生徒が現れる時、打ちのめされる経験をいたします。主は、失望するペテロに再召命の言葉をかけられたと同じく、「わたしの羊を飼いなさい」と呼びかけています。全権委讓して、主を愛し、生徒を全力で愛して、立ち上がり励みましょう。

研究資料

(中島啓二)

他の弟子たちもいた前節までと大きく雰囲気が変わり、ここではペテロだけに焦点が当てられる。「イエスが愛された弟子がついて来るのを見た」(20)とあることから、おそらくイエスがペテロを食後の散歩に誘ったのであろう。そんな一対一の状況でイエスはペテロの魂を取り扱われた。それはイエスが、主との関わりを3度も否定したことで失意のどん底にあったペテロのために用意された、なくてはならない回復のプロセスだったのである。

テキスト

15-17 あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか ここでイエスは、ペテロの愛の深さを、他の弟子たちと比べてどうかと問うているのではない。むしろそれを比較し、誇っていたのはかつてのペテロであり(マタイ26・33)、その自信は「あなたのためなら、いのちも捨てます」(13・37)と豪語するほどであった。イエスはそんなペテロに、今でもそのように言えるか否かを探られるのである。私があなたを愛していることは、あなたがご存じです しかし、現実には主を否ん

じまったペテロには、かつてのような宣言をすることは到底できなかった。けれども、彼のイエスを愛するとうい思いが偽りでないこともまた真実であった。そんなペテロの思いをイエスは、彼のうちから引き出してくださったのである。

ちなみにこのやり取りの中で、[ギ]アガパオー(神の愛に代表される無条件の愛を表すことが多い)と[ギ]フィレオー(友愛を表すことが多い)の2種類の動詞が「愛する」の用語として用いられている。イエスは最初の2回を[ギ]アガパオーで「愛するか」と尋ね、それらに對しペテロは[ギ]フィレオーで答えた。そして3度目にイエスは[ギ]フィレオーで尋ね、ペテロが[ギ]フィレオーで答えたのである。今日、多くの学者はこれらの用語の違いを重要視しない。その根拠は、少なくともヨハネ文書においては、両者が各所で相互可換的に用いられていること、そしてヨハネが類義語を同義で用い、多彩な表現をすることを好むからである。しかしそれは「愛する」の用語の違いに着目する解釈や説教(少数派ながらこの立場に立つ有力な神学者もいる)の可能性を否定するものではない。ただし、より重要なことは、イエスが愛について、

ペテロに3度繰り返し問われたということである。それは、ペテロの3度の失敗に呼応するものであるが、決して懲らしめのための執拗な追及ではない。それはペテロの愛の応答を3度導き出すものであって、その目的はペテロの回復に他ならない。このように繰り返し問い続けるイエスの姿こそ、ペテロの存在の奥底にまで彼を捜し求められる、良き羊飼いととしてのイエスの姿なのである。**わたしの羊を飼いなさい** その大牧者なるイエスが、ペテロを小牧者に任命される。イエスは、ご自身に従う牧者を通してその宣教の働きを進められるのである。なお「わたしの羊を牧しなさい」(16)、「わたしの羊を飼いなさい」(17)は、表現は多少異なるが、内容は同じと考えてよい(前述のヨハネの表現の特色による)。後にペテロは同じ表現を用いて、「あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを牧しなさい」(1ペテロ5・2)と長老たちに勧めている。**心を痛めて** 「あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」(ルカ22・32)。自らの失敗を直視し、打ちのめされる経験と、そこから一方的な主の恵みによって回復される経験は、ペテロが教会を牧会していく上で、不可欠なものであった。

18・19 **両手を伸ばし** 十字架刑を指す一般的な表現だが、ここでは十字架を刑場に運ぶために背負うことを指すという解釈もある(順番的にはこの方が理にかなっている)。ほかの人があなたに帯をして、望まないところに連れて行きます これは執行人による刑場への連行を指すのだろう。どのような死に方で神の栄光を現すかここにはつきりとペテロの殉教が予告されている。しかしそれは悲劇ではなく、神の栄光があらわされるときなのである。神はイエスの死を通してご自身の栄光をあらわされた(17・1)。同様に神は、イエスの名のために苦しみを受ける者を通して、栄光をあらわされるのである(1ペテロ4・16)。**わたしに従いなさい** イエスが「わたしが行くところに、あなたは今ついて来ることができません。しかし後にはついて来ます」(13・36)と予告されたことが、この命令によって成就した。さらには「あなたのためなら、いのちも捨てます」(13・37)とのペテロの宣言が、遅ればせながらも、ついに果たされるのである(実際この福音書が著された時期には、ペテロは既に殉教の死を遂げていた)。

参考文献 4月9日分に同じ。

聖書

創世記1・1-31

タイトル

天地を造られた神さま

暗唱聖句

はじめに神が天と地を創造された。

目 標

天地創造の神を信じる。

創世記1・1

導入

(和田牧子)

みなさんは「この世界はどうやってできたのかな?」「どうしてぼくはここにいるのかな?」なんて考えたことはありませんか? 聖書は「神さまがこの世界を造られ、わたしたち人間を造られたから、ここに生きている」と教えています。わたしたちが毎日学校に行ったり、遊んだりできるのも神さまがこの世界を、そしてわたしたちを造ってくださったからなんです。

神さまが天地を造られた

みなさんは工作するのは好きですか? なにかを作るとき、かならず材料をつかいますよね。画用紙やおり紙や木や粘土などの材料をつかいます。わたしが前にいた教会に、紙や木でとても上手に教会堂のミニチュアを作る人がいてとっても感動しました。

ところが神さまはすばらしい天と地を造られたのです。それは何もないところから造られたのです。まわりはただただ真っ暗で空っぽで何も無い状態でした。いえ、そこにたしかに神さまだけはおられたのです。何もないところから天地を造るなんて神さまにしかできないことです。どのようにして神さまは天地を造られたのでしょうか?

すべてはとも良かった

まず神さまは「光、あれ!」と言われました。するとどうでしょう。真っ暗なところに光があらわれたのです。みなさんも真っ暗な部屋に電気をつけると明るくなりますね。光ができたことによって、世界が一気に明るくなったでしょうね。神さまはとても満足されましたよ。「良し!!」と。そして神さまは光を昼と名づけ、暗やみを夜と名づけられました。一日目が終わりました。

次に神さまは大空を造り、大空の下にある水と上にある水を分けられました。この大空のことを神さまは天と名づけられたのです。二日目も終わりました。

そのようにして神さまは三日目から五日目までいろいろなものを造られました。陸には草や木、いろいろな植

物を造られました。そして大空に光る大きなものを造られました。そう、昼に輝く太陽や、夜をてらす月や星を造られました。この宇宙にはたくさんの天体がありますが、それらのすべてが神さまによって造られ、たまたれていることを思うとおどろくばかりですね。

天と地を造られたあとには、空をとぶ鳥たち、海によく大小の魚たち、陸には動物たちを造られました。みなさんはどんな鳥、魚、動物を知っていますか？ 数えきれないほどの生き物がいますね。いろいろな形、色をしています。空には大きなワシから小さなスズメまでたくさん鳥がとんでいます。その鳴き声もそれぞれ違いますね。カラスのなきごととウグイスのなきごえは全然ちがいます。海の底にはカラフルな魚たちや大きなクラゲやイルカ、サメなんかもいます。池には小さなカエルやメダカもいます。学校で飼っているという人もいますか？ 神さまはご自分が造られたすべてのものをごらんにって「とてもすばらしい！」と喜ばれましたよ。

神さまのかたちに

神さまはそれらの生き物を造られたあと六日目に、いよいよ私たち人間を造られました。神さまは言われまし

た。「さあ、人を造ろう。われわれのかたちに。海と魚、空の鳥、動物、地のすべてのものをおさめさせよう！」なんと神さまは人をご自分に似るものとして造ってくださいました。神さまに似るものなんて、とっても光栄なことですね。わたしたちは神さまとまじわり、神さまに祈りながら、この世界を良いものとして、おさめる役目をあたえられているのです。神さまはすべて造られたものを喜び、大切に大切に思っておられます。

神さまはこうして七日目にすべての創造のお働きを終えられ、この日を祝福し、聖なる日とされました。七日目は神さまは休まれたのです。私たちも休むこと…大切ですね。

結び

世界のすべてを造られた神様が、みなさんをも造られ、とっても愛してくださって、いつも見守り、支えてくださっています。何もないところからこのすばらしい世界を創造された神さまを思うときに、勇気百倍とつても心づよいですね。この神さまを信じて、毎日お祈りし、さんびしながら歩んでいきましょう。

♪海と空つくられた主は♪（イン8）

聖書 創世記1・1～31 テーマ 天地創造

序論

(小泉 創)

聖書には世界の始まりから、完成までが描かれています。私たちの生きているこの時は、その間にあります。神が導いて来られた歴史の中に生かされている私たちにとって、神がどのように世界をはじめられたかを知ることとはとても大切なことです。

一、はじめに

宇宙に始まりがあることは科学の世界でも語られています。科学からのアプローチは、どのようにこの世界が形成されてきたかという現象を説明しようとするものです。それに対して聖書が教えていることは、この世界がつくられた意味とそこにこめられた神の喜びです。子どもたちの自己評価が低くなっていると言われますが、あなたが愛され、価値ある存在としてつくられたのだということを繰り返し伝えたいのです。天地創造の物語の中からも、神の愛の中で人が創造されたことを聞き取るこ

とができます。神は何もない所からこの世界を造られました。すべてのものはじまる以前からおられる神が、世界の根源です。すべてのものは愛なる神によつてはじめられました。決して無目的な偶然の産物ではありません。

二、すべてのものは造られたもの

聖書には神の言葉によりすべてのものが六日間で作られたと記されています。ここで受け止めるべきメッセージは、すべてのものを順序立ててつくられた神の秩序と、創造の冠、クライマックスとしての人間の創造です。そして真に礼拝を受けるべきお方は神だけだということです。古代より人は太陽や月、山や森を礼拝してきましたし、不思議な動物の姿に神秘を感じ、神の使いであるかのように考えることもありました。さらには人を神のように拝むこともありました。しかしどのような天体も動物も人も被造物に過ぎず、決して礼拝の対象ではありません。礼拝をささげるべき唯一のお方は全てのものの造り主である神だけです。

三、非常に良かった

神は創造なさったものをごらんになって「よし」とお喜びになりました。グノーシス主義という異端は、霊は純粹だが、物質は汚らわしく憎むべきものであると教えます。汚れた世界を造った神はきよい神であるはずがなく、下級の存在なのだと教えます。しかしそれは違います。六目に人の創造が終わりすべてをご覧になった神は「非常に良かった」と喜ばれました。そしてご自分のわざであるアダムとエバをも喜ばれました。つまり私たちという存在も神によって喜ばれるものなのです。

しかしこの世界の状況、生きている人々の営みは、「非常に良かった」というところからはあまりにも遠く離れてしまっています。私たちも人から喜ばれていないように思うこともあったでしょうし、自分自身の目にもその世界に見えるかもしれません。それは私たちが今いるこの世界に罪が入り込んで、本来の姿を損なってしまったからです。罪の起源については来週学びますが、私たちの目の前に簡単に喜ぶことのできない重い現実があるのは事実です。

それでも神はこの世界も、私たちをも見捨てることを

なさいません。愛によって創造され、その存在を喜ばれた私たちを神は救い出し、この世界をまるごと作り変えようとしておられます。そして心の底から、「非常に良かった」という神の言葉を受け止められる時が約束されているのです。

結論

神がわたしたちの存在を喜んでくださっていることを感謝します。子どもたちにも、唯一の神による素晴らしき創造のみわざを愛をもつて伝え、神の素晴らしさを共にほめたたえましょう。

研究資料

(辻林和己)

創世記1・1～31、2・1～3は、「天と地が創造されたときの経緯」(2・4)が記されている。神が「6日間」の期間で天地のすべてを創造され、「第七日に、なさっていたわざを完成し」、「なさっていたすべての創造のわざをやめられた」(2・2～3)。神様がすべてを創造された創造主であり、宇宙、地球、生物、人間、そして私自身も偶然に出来た存在ではなく、神様が創造された被造物であることを伝えたい。

テキスト

1 はじめに 万物が存在し始める最初の時に、という意味。被造物の歴史の始まる決定的な時を示す。具体的には最初の創造から第6日の創造(31)までの期間を含んでいる。神 原語は(ヘ)エローヒム)。原語では複数形。文法的には威厳、尊厳、卓越性を示す複数である。天と地 天にあるものと地にあるものすべて。創造された「創造する」(ヘ)バーラー)は一人称単数。旧約聖書では、この動詞の主語は常に神。神の創造するものは、

「万象」(イザヤ40・26)であるか、あるいは様々な状況(イザヤ45・7、8)である。

2 地 「天と地」(1)の「地」に焦点が合わせられる。創世記の記者は2～31節は「地」、すなわち地球に焦点を絞って神の創造のみわざを記述する。茫漠として何もなく(ヘ)トーフー・ヴァ・ボーファー) 原文は「形無く、無秩序な混沌とした状態」を意味する言葉が用いられている。大水 原語(ヘ)テホーム)は「深淵」を意味する。口語訳では「淵」、新共同訳では「深淵」と訳されている。「ある」の原語(ヘ)ラーハフ)は母鳥が羽を広げてひなをおおう、という意味。神が見守っておられるイメージを伝える言葉が用いられている。

3 神は仰せられた 原文では定型句の言葉が用いられている。創世記1章にはこの定型句が9回用いられている。光、あれ 光そのものが神の創造の結果であること示している。光の創造は、第4日における太陽の創造に先行している(16)。

4 神は：良しと見られた この文も原文では定型句の言葉が用いられている。ここでは光の創造が神のみこころにかなうものであり、神がご覧になって満足されたと

いう意味。

5 名づけられた 名は実質を表す。神の与えられた名は本質の表現である。夕があり、朝があった。第一日原文では「まず夕があり、それから朝があった。」という意味になる。一日の始まりは、夕方から始まると捉えられている。ユダヤ人たちの時間感覚が反映しているのかもしれない。

8 大空を天と名づけられた ここでの「天」は1節の「天」とは意味が異なり、地から見上げる大空を意味する。

16 大きいほうの光る物 「太陽」のこと。小さいほうの光る物 「月」のこと。

21 海の巨獣 ここで「巨獣」と訳されている原語〔ヘタンニーム〕は旧約聖書の他の箇所では、「蛇」〔出エジプト7・9等〕と訳されている。ここでの「巨獣」は、「鯨」〔ホエール〕と訳されている英訳あり〕のことではないかという説やカナン神話における海の竜神を連想させる「蛇」か「わに」のことではないかという説等もある。創造された この節で1節以来初めて「創造する」という動詞が使われている。魚を含む水生動物と鳥類の創造が重大だということを示す表現かもしれない。

24 家畜や、這うもの、地の獣 「這うもの」は爬虫類

のみを指しているのではない。滑らかに動く、または這いながら動く様々な被造物のことも含んでいる。これら三種類の動物は、おおまかにいえば、家畜、小動物、狩猟動物のことであろう。

25 造られた ここでの「造る」は1節、21節の「創造する」という言葉とは原語でも違う言葉〔ヘアーサー〕が用いられている。この動詞は主語が神の場合も神以外の場合も旧約聖書の中で用いられている。

26 さあ、人を造ろう 原文を直訳すると「わたしたちは人を造ろう」。新改訳第3版は、「さあ人を造ろう」と訳されている。ここでの動詞は一人称複数形が使われている。その理由は神の威厳、尊厳を表す複数であるから、思案、熟慮を表す複数であるから、あるいは三位一体を暗示する位格の複数であるから等の説がある。人が創造される時が神の創造のクライマックスである。

参考図書 D・キドナー「創世記」『ティンデル聖書注解』

（いのちのことば社）、松本任弘「創世記」『新実用聖書注解』（いのちのことば社）他

聖書

創世記2・15～17、3・1～7

タイトル

罪の始まり

暗唱聖句

善惡の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。

目標

罪が不信仰から生まれることを知り、み言葉に信頼し、従う者となる。

創世記2・17

導入

(土屋開夫)

先週は、主なる神様がこの天と地を造られたことを聖書から学びました。そして神様は人間を「神様のかたち」「神様の似姿」に造られました。その時の世界はとっても素晴らしい幸せな世界でした。神様と人間が仲良く愛し合って、人間同士（アダムさんとエバさん）も仲良く愛し合っていました。

病氣ありません。戦争ありません。恐いことも、悲しいことも、悪いものは何も無かったです。

生きること、死ぬこと

ところで皆さん、どういう時に人間は「幸せ」だと思

いますか？ それは「神様の愛のもとにいる時」です。

私たち人間は、造り主である神様から「いのち」を与えられました。「いのちの息」を吹き込まれたのです。私たちはこの神様と心が一緒にいれば、生かされ続けるのです。

という事は、逆に言うと、もし「いのちの源」である神様から心が離れてしまったら、人間は「いのち」を失うのです。体が死ぬだけでなく、心も霊も死にます。

お花や草に例えてみましょう。植物は土に植わっているれば長く生きる事が出来ます。土からいのち（水や養分）をもらうからです。でも土から引き抜いてしまったら、間もなく枯れてしまいますね。人間もそれに似ています。

善惡の知識の木

だから神様は、アダムさんとエバさんにとっても大事な戒め・ルールを与えられました。「善惡の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」(17)と。

「善惡の知識の木」とは（色んな深い意味があると思いますが）、「自分で良し悪しを決める」という事だと思

います。「善か、悪か」「良いことか、悪いことか」を決めるのは神様です！ それなのに、人間が神様に聞きもしないで、自分勝手に「良し悪し」を決めるようになって、どんどん間違った方向に行ってしまうでしょう。それはまさに「神様のもたらから離れること」です！ そして「いのちを失うこと」です！

愛する人間が死んだら大変です。だから神様は、このルールを守りなさい、と命じられたのです。

誘惑

ところが、悪魔がへびの姿で誘惑してきました！ 気をつけて下さい。悪魔は今でも色んな姿で、子どもも大人も誘惑してきます。悪魔の狙いは、人間を神様から引き離すこと。そうして、いのちを失わせることです。

まず悪魔は、友達のように親しげに近づいて来ます。そしてウソをつきます。神様は「食べるとき、あなたは必ず死ぬ」と言われたのに、悪魔は「あなたがたは決して死にません」とウソを言いました。

そして、エバさんが「善惡の知識の木」の実を見ると、①ものすごく美味しそうで（肉の欲）、②とてもキレイな

色と形で（目の欲）、③食べたなら本当に賢くなりそうな（知識と高ぶりの欲）、特別な魅力がありました。

エバさんはどうしてもそれが欲しくなって、神様の言葉に背いても食べたくなり、遂に手を伸ばして食べ、そして自分だけでなくアダムさんにも食べさせました。

皆さんもそんな経験はありませんか？ 悪い事だと知りながら、どうしても欲しくて取ってしまったたり…。先生はあります。子どもの時、お友達の前で…。でも欲しくなって、盗んでしまった事があります。

神様に背くこと、神様から心が離れること、それが「罪」です。

結び

アダムさんとエバさんは罪の誘惑に負けました。でも、罪にも悪魔の誘惑にも勝った方がいます！ そう、イエス様です！ イエス様を信じ、イエス様についていけば、私たちはもう一度、神様の愛のもとに戻って、新しく生きることが出来るのです！

♪イエス様ごめんなさい♪（PW14、イン33）

聖書 創世記2・15〜17、3・1〜7 テーマ 罪の始まり

序論

(小泉 創)

誰でも日々の出来事の中に、生きづらさを感じることもあるでしょう。私たちが生かされているこの世界は、愛なる神によつて造られ、「はなはだ良かった」と言われた姿からはかけ離れています。なぜ世界はこのようになつてしまったのでしょうか。その原因が今日の聖書の個所で語られます。

一、神のいましめの中で

エデンの園で神は人に自由をお与えになりました。すべての木から心のおもむくままにとつて食べて良いといわれました。圧倒的な自由です。ただ一つのいましめは園の中央にある善悪の知識の木からとつて食べてはならない、そうするならばと死ぬ、というものでしたが、そもそも善悪の知識の木から食べる必要もなかったのです。創造の冠とされた人はすべてのものを治め、神と共に生きる喜びの中にありました。神のいましめを守って

いるとき、人は本当の自由を味わうことができるのです。

二、へびの誘惑と罪

エデンの園での平和で喜びに満ちた日々は、へびの誘惑によつて壊されました。ここで登場するへびは単に狡猾な動物ではありません。その背後からサタンが働きかけています。へびはエバに近づき、狡猾に神の言葉をねじ曲げ、神への信頼を失わせました。へびは言います。神は意地が悪く、よいものを人に渡すことを拒んでおられる、善悪の知識の木の実をあなたたちを神のようにさせるので禁じておられるのだ、と。エバが考えたこともない意地の悪い、異なる神の姿を教え込ませる言葉でした。エバは神のようになりたいという欲望がかきたてられ、神のいましめを破つて、善悪の知識の木の実を取つて食べ、アダムにも手渡し、ともに神の約束にそむいたのです。これは神から引き離すサタンの誘惑でした。

人は神の愛の言葉を捨てて、サタンの偽りの言葉に従う者となりました。そして世界は生命の源である神を捨て、サタンが力をふるう自己中心的な世界となりました。

三、罪人を招く神の恵み

罪の根源にあるのは、高ぶりです。神に従うのではなく神を押しつけ、自分が神のようになってすべてを支配したい、という思いです。神のいましめの中にいるときは、アダムとエバも「裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった」(2・25)という深い交わりがありました。罪におちいったときから、それは変わりました。彼らは、自分たちが裸であることがわかっていちじくの葉で身を隠すようになり(7)、神の顔を避けて、園の木の間に身を隠すようになりました(8)。さらに自分の罪を認めず、他の者に責任をおしつけたのです。罪は神と人との関係を破壊し、人間同士の関係を破壊します。サタンは人を高ぶらせ、互いに傷つけあい、神の造られた世界を破壊するようになってきました。これが私たちの住む世界です。

しかしその一方で、神は長い歴史を通じて、罪の中にいる人に「あなたはどこにいるのか」と語り続け、神に立ち返るように招き続けてこられました。さらに神を恐れてやみに身を隠す罪人のもとに、御子を送ってください、十字架によって贖い出してくださいだったので。自分

の力では神のもとに帰ることのできない罪人を、御子の命によって救い出し、再び愛なる神のもとに連れ帰ってください、これは神の恵みです。

結論

神のもとを離れたアダムとエバの姿は、私たち自身の罪の姿でもあります。しかし神から離れ、暗やみに住む私たちの罪をゆるし、再び神を愛し、人を愛する者となる道をイエス・キリストが開いてくださいました。愛なる神の真実な言葉、教えに聞き従いましょう。そしてこの世界に、神の愛のご支配が広がるために働きましょう。

研究資料

(小平徳行)

神によって造られた人間が、どのようにして罪に堕ちたかについて記されている。

テキスト

16～17 ここに神と人間との関係の本質が示されている。あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい園のどの木からでも「思いのまま」その実を食べる事ができるとは、神に依存する人間に自由が与えられていることを示している。人間は自由に決断し、選択することのできる存在として造られた。しかし、**善悪の知識の木からは、食べてはならない**。同時に唯一の禁令が定められ、人間に与えられている自由が条件付けられている。この禁令が定められたのは、人間は神ではなく、神の命のもとにある一被造物であることをわきまえさせるためであろう。人間は神の戒めに従うという条件において自由である。神への従順こそが人間の真の自由の保証である。この禁令は、無数にあるあらゆる木のうち、たった一本の木だけを禁じるものであったので、決して厳しいものではなかった。また、この禁令が人間だけに与えられ

たのは、人間が自由意志を有しており、良いこと悪いことを選ぶ道徳性を有する存在として造られたことを意味している。**善悪の知識の木** この木の実自体に不思議な力があり、人を死に至らせたり、善悪の知識を与える効力があるというのではない。善悪の知識は神の善悪の判断に由来する。人間は神への従順、不従順によって、具体的に善と悪を知る。「知識」は体験的な知識を意味する。神に従わずに、この木の実を食べるということは、本来、善悪の基準は神のものであるが、人間が神に代わって自分勝手に善悪の判断をし、自分の意のままに生きることを意味した。ゆえに人間がこの木の実を食べた時、神は「人はわれわれのうちのひとりのようになり、善悪を知るようになった。」(3・22)と言われたのだらう。

1 **蛇** 神に造られた野の生き物であり、狡猾さが特徴である。**賢かった** この語は良い意味での「賢明さ」だけでなく、「ずる賢さ」という意味で用いられる。蛇そのものがサタンであるというよりは、背後においてサタンが、この蛇の狡猾さを利用していると見るべきであらう。**園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか** ここには人間に与えられた自由に対す

る神の制約を印象づけようとする狡猾さが見える。本来はどの木からも食べてよいと、最大限の自由を与えられたものを、どの木からも食べてはならないと、神の言葉を改ざんし、最大限の制約に変え、神が人を束縛する存在であるかのような印象を与えている。

2～3 ここには神の言葉に対する女の受け止め方の揺らぎ、不正確さを見ることができる。私たちは園の木の実を食べてもよいのです 神からの最大限の自由を、一応与えられている自由に変えている。それに触れてもいいけない これは神の禁令の中にはない。女が禁令に対して意識過剰になっていることを見る。死ぬといけないからだ 神の言葉の不正確な引用である。「必ず死ぬ」(2・17)を変えて、木の実を食べてもお生きる可能性があるがあることを無意識のうちにも認めようとしている。

4～5 あなたがたは決して死にません 神の言葉に対するサタンの断定的な否定。神の言葉に従わなくても大丈夫であると暗示することにより、神の絶対的な權威を否定している。それを食べるそのとき、…神のようになって善悪を知る者となることを、神は知っているのです サタンは、女に神の意図を意地悪なものと思わせ、

神の愛と真実を疑わせようとしている。

6 そこで、女が見ると「見る」(ヘラーアー)は、注意深く見ることを意味する。女はこの時、誘惑を避けることに失敗している。食べるのに良さそうで、目に慕わしく、またその木は賢くしてくれそうで好ましかったこの誘惑は、肉の欲、目の欲、誇りをかき立てるものであった。この感覚が神のみこころに方向付けられずに優先されるとき、罪を犯すことになる。夫にも与えたので、夫も食べた 夫は女が食べないように止めるべきであったが、同調してしまった。彼が先立って行なったことではなかったが、「アダムの変反」と言われることになる(ローマ5・14)。

7 自分たちが裸であることを知った 蛇の言葉の通り、彼らの目は開かれたが、そこで知ったのは、自分たちが裸であることだった。いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った 神から離れた自分の中に絶対的な価値を見いだすことはできず、恥じて自分の姿を隠さずにはおれなかった。

参考図書 舟喜信「創世記」『新聖書注解・旧約1』、小畑進「創世記講録」(以上いのちのことば社)、他

聖書

創世記3・6～19

タイトル

罪の結果

暗唱聖句

罪の報酬は死です。

□ーマ6・23

目 標

罪の結果の恐ろしさを知り、罪を悔い改める者となる。

導入

(土屋開夫)

先週のお話を覚えていますか？ 思い出してみましょう。主なる神様が造られた世界、それは最初とても素晴らしく、幸せな世界でした。なぜ幸せだったのか？ それは神様の愛のもとに人間がいたからです。

その幸せがずっと続くために、神様は一つのルールを与えられました。それは「善悪の知識の木からは、食べてはならない。」というものでした。言い換えるなら、「わたしの愛のもとにいなさい。わたしから離れてはならない。わたしの言葉を守りなさい」ということです。

罪の結果

では、この神様の大事な約束を破ったら、どうなってしまうのでしょうか？

こう言われています、「その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」つまり、神様の言葉に背いて、神様から心が離れると、「ちよつと痛い目に会うよ」とか「苦しい思いをするよ」とかではなく、100パーセント、絶対必ず死ぬ、ということです！ なんと恐ろしい事でしょうか。

罪の症状

神様の言葉に背いたアダムさんとエバさんは、すぐに死んだわけではありませんでした。けれども、罪の力、罪の影響はどんどん現れてきました。

罪は病気に似ています。何かの病気になっても、スグに死ぬわけではありません。けれども体のどこかが痛くなったり、元気がなくなったり、その症状はだんだん現れてきます。

アダムさんとエバさんもそうでした。今までは全く無かった、罪の影響が次々と現れてきました。

①自分を隠さないといけなくなりました。

今までは赤ちゃんや幼な子のように、自分のありのままを出しても何も恥ずかしくありませんでした。でも罪を犯してから、自分を隠したいと思うようになりました。

②神様のことが恐くなりました。

今まで神様のことを「恐い」などと思ったことはありませんでした。神様のことが大好きだったのです。でも罪を犯した途端、神様のことが恐くなり、避ける（隠れる）ようになりました。神様との仲良しの関係が、壊れてしまったのです。

③罪を認めず（「ごめんなさい」を言わず）、他の人のせいにするようになりました。

「あの女のせいです」「へびのせいです」、それどころか「神様のせいです」とさえ言いたそうでした。

④そして、男の人も女の人も、人間は苦しんで生きる者となりました。

⑤そして、やがて「土に帰る」「ちりに帰る」。つまり「死ぬ」のです。

⑥それだけではありません。体が死ぬだけではなく、霊が死ぬのです。それはどういうことかと言うと、神様から完全に捨てられる、ということなのです！

何と恐ろしい事でしょうか。ローマ6・23に「罪の報酬は死です。」とある通りです。

証し

先生は子どもの頃、この事を考えたら本当に怖くなり

ました。「ボクの心はキレイじゃない。弟に意地悪したり、クラスの女の子を皆でいじめたり、お母さんに悪い言葉を言ったり。ボクは死んだら、絶対に地獄だ！」そう思って毎日泣いていました。ところが教会のおばさんが教えてくれました。ボクが地獄に行かないで済むために、イエス様が身代わりに十字架にかかって、神様から捨てられてくださったんだ、と。それを聞いて、暗闇に光が射した思いでした。そしてイエス様を信じて、5年生の時に洗礼を受けました。

まとめ

さっきのみ言葉には続きがあります。

「罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」

つまり、罪の結果は死ですが、イエス様を信じた結果は永遠のいのちなのです！ ハレルヤ！

♪主がついてれば♪（PW12、イン10）

聖書 創世記3・6・19 テーマ 罪の結果

序論

(石田高保)

創世記にはあらゆるものの始まりについて書かれています。宇宙の始まり、地球の始まり、自然の始まり、生命の始まり、人間の始まり、罪の始まり、救いの約束の始まり、家族の始まり、文明の始まり、言語の始まり、国々の始まり、イスラエル民族の始まりなどなど。ですから創世記は聖書の根であり、源流であり、土台であると言えるでしょう。創世記を調べるならば、現代社会の様々な要因が見えてきます。この世界には突発的にある出来事が起きるように見えますが、実は必ずその背景があります。歴史を持たずに何かが起こることは決してありません。古今東西、人間の考えることと為すことは本質において何も変わっていません。ですから創世記を学ぶということは現代の人間を見極め、社会を見抜くことができるのです。

一、罪の本質

創世記には罪の起源が記されています。なぜこの世は

悪で満ちあふれているのか、その原因について究極的な答えを出した人はいません。なぜ家族関係がうまくいかないのか、なぜいさかいがあるのか、なぜ犯罪はなくなるのか、なぜ戦争は起きるのか、なぜ病気があるのか、なぜ災害が起きるのか、考えてゆくとこの世は不条理きわまります。苦しみにあつた人は神がいるならいったい何をしているのか、ほんとうに神はいるのかという疑問さえ起こしかねません。しかし聖書以外にこの疑問に答えるものはないでしょう。きょうの個所には罪がどのようにに始まり、それがどのようにに世界を破壊したかについて記されています。

神はエデンの園に「善惡の知識の木」を生やされました(2・9)。この木から取って食べてはいけない、必ず死ぬからと禁じられていました。そもそも善惡を知る木とは、何が善で何が悪かを判断する基準のことを意味します。これは神聖にして犯すべからざる神の大権です。神に特別愛されている人間といえども、これに触れることは厳しく禁じられました。なぜなら人間が善惡の判断の基準を奪い取るならば、必ず自分本位の基準にすり替えてしまうことを神はご存じだったからです。罪を罪と

せず、自分の欲望のおもむくままに生きるようになることはしました。人間が自分で善悪の判断をするようになる、罪深い性質のゆえにたとえ悪い行いでもそれを良いものと自分勝手に判断するようになります。その結果は肉体的に死ぬ前に、霊において死んだ状態になります。神から離れ、その命から断ち切れ、自分の罪を刈り取りながら生きる状態です。こうして人間社会には罪が疫病のようにまん延するようになってしまいました。

神は17節でアダムに善悪の知識の木から実を取って食べてはいけなと命じています。つまり取って食べることでできるように、何の囲いも設けていなかったわけです。彼の自由意思で食べることもできれば食べないでいることもできるようにしました。神は全能のゆえにアダムに罪を犯させないようにはできなかったのかという疑問がわきますが、神が人間に自由意思を組み込んだために罪を犯す自由も犯さない自由も所有しました。神は私たちが強制されてではなく、自分から進んで神の言葉に従うことを望んでいます。

二、罪のきっかけ

最初の人アダムが罪を犯す前に、妻のエバが罪を犯す

ように、へびすなわちサタンから誘惑されました。悪魔はへびを使ってエバを誘い込みます。なぜアダムではなくエバなのかは謎ですが、へびが善悪の木から取って食べるように巧みに誘惑しました。まず第1段階は、へびは神のことは疑わせません。神は善悪を知る木からは取って食べるなど言っただけなのに、蛇はすべての木から取って食べるなど言ったのかと神のことは歪めます。

第2段階は、「あなたは必ず死ぬ」(2・17)という神の断言を全否定し、「決して死ぬことはない」と真つ赤な嘘を吹き込みます。第3段階は、神が自分の地位を脅かされるのを警戒しているから禁じているのだと猜疑心に導き、善悪を判断する基準を獲得して神のようになれるとだましました。こうしてエバはまんまとサタンの策略にはまり、アダムとともに人類に罪を引き入れてしまいました。

結論

以上のように人間社会がなぜ罪であふれかえっているのかという疑問に対して、この箇所は明確に答えを出しています。この世で生きる限りだれひとり罪の影響から免れることはできませんが、イエス様の贖いの恵みの下でのみ罪の力に打ち勝つことができるのです。

研究資料

(加藤 満)

パジェット・ウィルクスは「この(創世記)第3章の記事が事実でないならば、全聖書は破壊されねばならぬ。」と記している。この個所は神話ではなく現実である。

人間は神の被造物であり、また喜びをもって神への従順な応答に生きるように、神によって、神のために創造された。しかし罪は、神に従い、応答することを拒むことを通して、被造物が有する適切な秩序を歪め、破壊する。自らが神の被造物であるという認識を歪め、それに背くことは、神との関係を歪めることに繋がる。神を喜び、讚美し、感謝し、従うという関係に自らが置かれていることへの拒絶である。

しかし神は人間との関係を、律法を通し明確に表現し、またイエス・キリストの贖いによって回復させ、今も永遠のいのちによって、神と共に生きる現実を与えて下さっている。罪の恐ろしさを覚えると同時に、究極的な勝利が既にあることを前提に扱いたい。

テキスト

6 **その実を取って食べ** エバは創造主ではなく被造物

に従い、教えられた教えではなく自分の印象に従った。そして自己実現を自分の目標にしている。しかし、人の生命線は物質的ではなく霊的なもの、つまり神の言葉に信仰的に応答することである。この生命線を断つことは死を意味する。

7 **ふたりの目は開かれ** ヘビの言葉は「目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者となること」(5)である。神のかたちとして造られたエバに神のようになることは必要ない。しかしこの言葉によって、エバは神から自らに賜った十分さを疑い、何かが未だ足りないかと誤解し、既に十分見えているのに、より目が開かれるよう求め始める。しかし、目が開かれて見えたのは「自分たちが裸であること」(7)だけである。いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った 裸であつても恥ずかしくなかったのが、腰の部分を覆うという恥の感覚に襲われている。人の使命であった「生めよ。増えよ。地に満ちよ」(1・28)という神の言葉に従うことに、恥と情欲が伴うこととなった。

8 **【主】の御顔を避けて** 「顔」は神の様々な性質を表現する。そこには裁きの神であり、同時にご自身を与

えてまで救いを成し遂げる愛の神の顔もある。しかし罪の結果、人は神の顔を避ける様になる。ヨハネ黙示録6・16と比較。対照としてヨハネ黙示録22・4を参照。

12 あなたが与えてくださったこの女 罪の結果、アダムはエバへの責任転嫁だけでなく、エバを与えた神へも責任転嫁している。「責任」は英語で「responsibility」だが、これは「response」（応答する）、「ability」（能力）を意味し、神のかたちである人間の基本的な姿勢である。しかしここでアダムは、神の問いかけに応答せずに避け、代わりに自らを無力な被害者に仕立て上げている。

14 神である「主」は蛇に言われた ヘビへは問いかけがなく、判決だけである。ヘビへの呪いは、「おまえは腹這いで動き回り、一生、ちりを食べることになる」だが、これはそれまでヘビに手足があったということを単に意味しない。むしろ、「地を這う」ことが呪いとしての象徴的な意味を持つようになった事を意味している。参照としてイザヤ65・25。

16 あなたは苦しんで子を産む これは出産に限らず、出産に至る女性の肉体的苦痛を示している。本来、神の祝福であるはずの出産が常に苦しみの伴うものとなっ

た。あなたは夫を恋い慕うが、彼はあなたを支配することになる。恋い慕うことへの応答が支配となっているのは、結婚の交わりが、統制の取れた感情の交わりから、本能的な衝動による交わりへと移ってしまった事を描いている。本来の結婚の祝福は、決して力の支配ではない。むしろ、神が定めたそれぞれの役割に従い、愛と尊敬の表される祝福ある関係である。

17 大地は、あなたのゆえにのろわれる 本来アダムは「地を従えよ」（1・28）と、神の造られた世界への管理責任があったが、ここでアダムの罪の結果が、神が良しとされた土地にまで及んでしまっている。

18 茨とあざみ 自滅した人間と神の裁きの情景を示している。例として怠け者の畑（箴言24・31）、滅ぼされた都（イザヤ34・13）。罪を犯し、神の秩序を失った人間は本来の世界を管理するという使命を果たすことが困難となった。

参考図書 D・キドナー『ティンデル聖書注解 創世記』、鍋谷堯爾『創世記を味わうⅣ』、W・ブルッゲマン『旧約聖書神学用語辞典』、他

聖書

出エジプト20・12～17

タイトル

あなたの父と母を敬え

暗唱聖句

あなたの父と母を敬え。

目標

両親を敬い、大切にする。

出エジプト20・12

導入

(後藤 真)

「お父さんとお母さんを大切にしましょう」

「はい、分かりました！」

これで今日のお話はおしまいです。ただし、ほんとうにお父さんとお母さんを大切にできたら…です。

母の日や父の日には、少しは感謝するかもしれません。でも、ふだんはどうでしょうか。わたしたちが大人になつて、お父さんとお母さんがおじいちゃんとおばあちゃんになり、手助けやお世話がいるようになっても、大切にできるでしょうか。「父と母を敬いなさい」ということを教えているのは聖書だけではありません。だれでも分かっていることなのです。でも行うのはとてもむずかしいことなのです。

十戒

今日のみのことばは、神様がイスラエルの民に教えた大切な教え、十戒（じっかい）の中に出てきます。「父と母を敬え」の他にも、盗んではならないとか、殺してはならないとか、当たり前だと思えるようなことばが並んでいます。

でも、当たり前のようなことでも、神様はイスラエルの民に十戒を教えなければならなかったのです。イスラエルの民は長い間エジプトで奴隷になっていました。それで、エジプトの王様の命令で働くという、奴隷の心でいっぱいでした。

でもこれからは違います。エジプトを出て約束の地に入り、新しい国を作ります。エジプトの王様に従う奴隷の生き方から、まことの神様に導かれ神様といっしょに生きる新しい生き方に変わるのです。十戒は、そんなイスラエルの民に、神様が教えてくださった新しい生き方のでびきでした。

エジプトでは、まことの神様を礼拝するやりかたも分からなかったでしょう。安息日に休むこともできなかったでしょう。嘘をついたり、盗んだりする人もいたかも

しません。お父さんとお母さんも、大切にされていないか
 かったかもしれません。神様は、そんなイスラエルの民
 の姿を見て、十戒を与え、「父と母を敬え」という当たり
 前のことを大切にするように教えたのです。

わたしはどこから？

「お父さんとお母さんが立派だったら自然に敬うのに
 なあ。礼拝から帰る車の中で時々ケンカしているし、お
 母さんは勉強しなさいってうるさく言うし、お父さんは
 休みの日はゴロゴロして何もしてないし、あまり敬え
 ないなあ」なんて思う人もいるかもしれません。（この
 原稿を書いている）わたしも父親なので子どもにそんな
 ふうに言われるとドキッとします。子どもに尊敬される
 ような父親にならなければなあ、と反省します。

でも、神様はお父さんとお母さんが立派だから敬いな
 さいと教えているわけではありません。わたしたちが生ま
 れたのはお父さんとお母さんがいるからなのです。そし
 てお母さんのお腹の中でわたしたちを造ってくださった
 のは神様です（参考・詩篇139篇）。神様がお父さんとお母
 さんを選び、わたしたちのお父さんとお母さんにしてく
 ださいました。その神様の思いを受け止めて、お父さん

とお母さんを敬うのです。

おとしよりが大切にされる国

「父と母を敬う」という教えには、続きがあります。
 それは「あなたの神、【主】が与えようとしているその土
 地で、あなたの日々が長く続くようにするためである」
 です。これはどういう意味でしょうか。

イスラエルの民の中に、お父さんとお母さんを大切に
 することが広まるとします。すると、イスラエルはおと
 しよりが大切にされる国になります。自分が年を取った
 ときにも子どもたちが大切にしてくれるので、長生きし
 やすくなるのです。

父と母を敬うということは、神様を大切にすることとい
 うことであり、自分のいのちを大切にすることにつ
 ながるのです。神様はわたしたちが幸せになるように
 願って、このことを教えています。そんな神様の気持ち
 を思いながら、もういちどみなさんでみことばを読んで
 みましょう。

「あなたの父と母を敬え」

アーメン！

♪すばらしい神様♪（PW23）

聖書 出エジプト20・12・17 テーマ 父と母を敬え

序論

(石田高保)

人間が生まれてから最初に持つ人間関係は、通常は親との関係です。特に乳幼児期に親との健全な人間関係を持つことは、基本的信頼感を養う上で極めて重要であることが知られています。この期間に受けた影響は、良かれ悪しかれ生涯に及ぶようです。昔の人もこのことに気づいており、三つ子の魂百までもと言い慣わしましたのでしよう。

一、親を敬うことの祝福

「あなたの父と母を敬え」、敬うとは、その人を重く見ることです。またこれには「恐れる」という意味もあり(レビ記19・3)、神は子どもをこの世に送り出すためにその両親を用いられます(ヨセフとマリヤもしかり)。その意味において、両親にとって子どもが神からの賜物であるのと同様に、子どもにとっても両親は神からの賜物です。それゆえに両親はその性格と行状いかに関わらず、敬われなければならないわけです。

「あなたの日々が長く続くようにするためである」と祝福の約束が伴っています。実際問題としても、親の言葉によく従う子どもは、そうでない子どもに比べてより危険を避け、概して賢明な選択をし、悪事から距離を置き、その結果、長く生きる可能性が高いと言えます。また親に従うことを身に着けた子どもは、神に従うことを身に着けやすいようです(箴言22・6)。ですからこの言葉は、単なる長生きを約束しているだけではなく、永遠の命を持つことまで約束しているだけではなく、永敬うことは子どもの信仰の継承に不可欠の要素なので、単なる親孝行の勧めではありません。

ではこの言葉は、新約ではどのような反映されているでしょうか。イエス様は明らかに両親を敬い、彼らにお仕えになりました(ルカ2・51)。十字架の苦しみの中でも母マリヤへの配慮を忘れなさいませんでした(ヨハネ19・26・27)。

二、親を敬えるように育てる

父と母を敬うようにとの言葉は、子どもが親を重んじて、従うように命じているわけですが、それに関連して、そのような子どもに育て導く責任はその親にあるこ

とも聖書は明言しています。「父たちよ。自分の子どもたちを怒らせてはいけません。むしろ、主の教育と訓戒によって育てなさい」(エペソ6・4)、ここでの呼びかけが「母たる者よ」でないことに注意したい。聖書では子どもへの教育の第一の責任は父親であることが繰り返して明記されています。日本の生活史においても、母親が教育の責任を持つようになったのは、高度経済成長期からであるとも言われます。それは父親の家にいる時間が職場によって奪われるようになったことが主因のようです。それまでの日本社会は、原則として父親が家長として子どもたちの教育の責任を負っていました。それは聖書の価値観に通じるものです。ですからクリスチャンの父親は、子どもの教育に主体的に関わるべきでしょう。その場合の関わり方は、子どもを怒らせない、イライラさせない、つまりその子の主体性を重んじるということでしょう。いわゆる反抗期は当然と思われていますが、もしかしたら親による子どもへの「反抗させ期」かもしれません。自立心を妨げられて反発するのは子どもの問題ではないでしょう。いつまでも自分に依存してほしいという欲こそ問題かもしれません。親として無数の

失敗を繰り返すかもしれませんが、それが100%子どもに反映せず、よく育っているとすれば主の憐みでしょう。

また親が孤軍奮闘するのではなく、主が共に働いてくださり、主が育てて下さるという信仰に立つことです。実は親にも教師にもできることは限られています。あとは神さまと子どもに任せることでしょう。その祝福はその子の生涯に及ぶ手ごたえのあるものとなります。「若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない」(箴言22・6)。

これまで見てきたように、養育期間にある子どもは親を敬い、その指導に従うように言われています。しかしいったん結婚するならば「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となる」(創世記2・24)わけですから、第一にすべき人間関係は親から夫(妻)に切り替えることとなります。配偶者を二の次にする夫婦関係に深刻な問題を引き起こすと言われます。

結論

子ども時代に親をどう敬うか、敬わないかという選択はその後の人生に強い影響を及ぼします。賢い選択に導くために神を敬い人を愛する模範を示しましょう。

研究資料

(金井由嗣)

「母の日」の今日的意義

「母の日」の起源は20世紀初頭、アメリカで一人の女性が母の記念日に教会で記念会を開き、出席者に白いカーネーションを贈ったことに始まる。記念された亡き母アン・ジャービスは南北戦争中に敵味方を問わずすべての傷病者の看護をする運動「マザーズデイ・ワーククラブ」を始めた女性で、母としての愛をすべての人に注ぐことを提唱した。キリスト教人道主義に基づく、古き良きアメリカの「母」を記念する行事である(『21世紀教会学校ハンドブック』、英語版ウィキペディア参照)。

家庭の崩壊が進んでいる今日、母親に感謝することのできない子どもも多く存在する。母親がいること、子どもにとって良き母親であることを当然の前提として母の日を祝うことが、ある子どもたちを傷つけることになりはしないか。注意深く、また母の日が持つ本来の意義を大切に、この日の教会学校礼拝を守りたい。

宗教改革以来、プロテスタント教会は司祭(牧師)の結婚を認め、結婚をサクラメント(聖礼典)ではなく神

の創造の秩序に基づくものと位置づけることで、普遍的な家庭の価値とその中で家族のそれぞれが果たすべき役割を聖書から学んできた。家庭での礼拝、祈り、聖書を読むことを重んじてきたピューリタニズムと敬虔主義の伝統がもたらした「良き母」たちの生きた証しが、「母の日」運動の背後にある。

家族は、その構成員各々について、また全体として、生まれながらにしては罪の支配のもとにあり、イエス・キリストの救いを必要とする。クリスチャンホームであつても例外ではない。神様が「良きもの」として創造された家庭が互いを傷つけ合う場所となつてしまう罪の現実を認めた上で、福音によつて救われ「神の家族」とされた教会が、家族の救いとみことばに基づく祝福された家庭形成の希望を伝える「恵みのことば」を持つ必要がある(近藤勝彦『キリスト教倫理学』第7章「結婚と家族の倫理」参照)。

文脈

この箇所は、十戒の後半、隣人との関係に関わる部分である。母の日礼拝との関係では、2つの点に注意する必要がある。(1)神の救いの業が先行し、恵みによつて神

の民とされた人々に対する命令であること。福音による新生抜きで、心から律法を守ることができない。それ故、神に関する戒めが語られた後で隣人に関する戒めが与えられるのである。(2)両親に対する関係が対人倫理の第一に来ること。神が創造のはじめに人間を「男と女とに」創造し、「産めよ、増えよ」と命じられたのだから、創造の秩序において対人関係の第一に家族が来るのである。

テキスト

12 あなたは父と母を敬え 対人関係における命令の中で唯一の肯定命令であり、断言的に与えられている。神の命令は「もしあなたがたにとって良い両親であれば」敬え、というのではない。神が創造された秩序のゆえに、無条件に両親を敬うことが求められている。ルターとカルヴァンは共に、教理問答の中で「神を畏れるが故に両親を敬い、両親の命令に従う」ことを教えている。また両者ともに、この戒めが家庭内に限定されるのではなく神が創造において定めたすべての秩序に、「神のゆえに」従うことを含んでいると理解している。そのための肯定命令であり、神が創造された秩序に反する行為が次節以下で禁止されているのである。**あなたの神、[主]が与えよ**

うとしているその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためにある この約束は、両親を敬うことが個人的長寿をもたらすという呪術的・現世利己的な教えではない。神に「親として」召されて自分の誕生の直接の原因となった両親の存在に感謝し、「子として」の召しにおいて両親を敬い従うことが、自分の人生を感謝して受容するための土台であることを教えているのである（近藤由美『新・親との関係を見つめる』参照）。また年長者を敬うことが習慣化した社会は、自分が高齢になった時に住みやすい社会であることは言うまでもない。エペソ6・2ではこの命令が「約束を伴う第一の戒め」として引用されている。律法は人を縛るためではなく、幸福にするために与えられている。福音によつて新しく生まれた人は、神のみことばに喜んで従い、永遠の命の喜びを抱いて地上の人生を幸福に生きることができると。

参考図書 『21世紀教会学校ハンドブック』、近藤勝彦『キリスト教倫理学』、近藤由美『新・親との関係を見つめる』、ルター『小教理問答』、カルヴァン『ジュネーブ教会信仰問答』、R. A. トール（ティンデル）、B. S. Childs (OTL), V. P. Hamilton (Baker).

聖書

マタイ5・1～12

タイトル

さいわいな人

暗唱聖句

心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。

マタイ5・3

目標

真に幸いな生涯の秘訣を知る。

導入

(和田牧子)

いきなり質問ですが、皆さんはしあわせですか? 「うん、しあわせって何だろう?」「よくわからないなあ」という人もいるでしょう。ある牧師先生はイエスさまのことを伝えるためにトラクトを持って一軒一軒お家を訪問したそうです。りっぱで大きな住宅街でした。ところが出てきたお家の人たちは、しあわせそうではなく、いろいろな悩みを打ち明けてくれる人もいたそうです。大きな家、高級車、キラキラした宝石を沢山持つていても必ずしもしあわせではない人がいっぱいいるのですね。

山の上でのおしえ

イエスさまはガリラヤ地方をめぐり歩いて、神さまを信じて歩むことのすばらしさを宣べ伝えておられます。

た。そして多くの人々が病氣や痛み、ときには悪霊にとりつかれて苦しんでいるのを見て、かわいそうに思い、そのような人たちのために祈りをして病氣をなおされたのです。それで、イエスさまの評判がますます知れわたりました。とても多くの人たちが集まってくるのを見て、イエスさまは山の上にのぼられました。するとイエスさまの弟子たちがイエスさまのそばに集まったので、イエスさまは口を開いてお話をされました。「どんな人たちがしあわせなのか?」というお話です。

心の貧しい者はさいわい

まず最初に言われたのが「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです」でした。「貧しい」と聞いて皆さんはどう思いますか? 「貧しいってお金がないことだね。いやだなあ」と思いませんか? イエスさまはこのあとも「悲しむ者は幸いです」とか「迫害されている者は幸いです」とか、すぐにはピンとこないようなおしえを語られているのですね。人間の常識をこえているような、「えっ、それって逆とちがうの?」というような教えです。

今日のみことばでは「心の貧しい者は幸いです」とあ

りますね。そう、貧しいは貧しいでも「心」の貧しい人がしあわせだと言うのです。これは何も感じない人とか、何も考えていない人とかいう意味ではなく、「心がへりくだった人」という意味が一番近いかもしれません。

心を低くして、他の人を自分より高くして「教えてください」と言える人。自分は人より勉強がよくできると自慢したり、他の人をバカにしたりしない人。そして何よりも「ありがとう」「ごめんなさい」が言える人です。神さまや家族やお友だちに「ありがとう」「ごめんなさい」と心から言える人は心がへりくだった人なのです。

天の御国って？

「天の御国はその人たちのものだからです」とあります。「天の御国」とは神さまがおられるところ、世界の王さまである神さまが支配されているところです。「支配」ということはむずかしいですね。でもこの漢字をよく見てみると「支える」と「配る」という漢字が使われています。神さまが支えてくださり、心をくばってくださいているのが天の御国なのです。もしわたしたちが心を低くして「神さま信じます。神さまごめんなさい。神さまありがとうございます、」とお祈りするならば、イエ

スさまが心の中に入ってくださいって、心の中に安心や平和ややさしさがいっぱいに広がって、とっても豊かになるのですね。あれれ。貧しかったはずの心がイエスさまによって豊かになりました！

聖書の中にはいろいろな登場人物ができます。心がへりくだった人の反対で、えらそうにしている人たちもいました。宗教学者や祭司さんでありながら、「あんなことしたらあかん」と人をさばいてばかりの人たちもいました。でも「わたしをあわれんでください」「罪びとのわたしをおゆるしてください」と心のへりくだった人たちも沢山でています。

結び

だれよりもイエスさまご自身が、神さまであるにもかかわらず、そのご自分をすてて、人となり貧しい家畜小屋にお生まれになりました。そしてわたしたちを救うために十字架の死にいたるまで低くなってくださいましたのです。ほんとうのしあわせはすべてイエスさまのもとにあるのですね！

♪神の国と神の義♪ (イン94)

聖書 マタイ5・1～12 テーマ さいわいな人

序論

(高橋頼男)

幸いを求めない人はいません。誰もが幸いになりたいと願い、自分の思い描く幸いを得るために懸命です。今まで著名な「幸福論」がいくつも世に出て、人間の幸福について論じられ、問われてきました。旧約聖書の詩篇にも有名な幸い論が出てきます(詩篇1・1、詩篇32・1～2)。

ここにはイエス・キリストの幸い論があります。しかし、主イエスの幸い論は、万民に語りかける教訓や垂訓、教えの類いではありません、それは明確な説教なのです。イエス様は、ここで〈弟子たち〉と〈群衆〉に向かって八つの幸いについて語っておられます。イエス様の幸福論はまことにユニークです。人が考える幸い、この世の期待する幸いとは全く違っており、まさに真逆をいくものです。世の基準ではとても測れず、むしろ不幸とかわれていることが幸いのしるしであるかのようにです。その理由は、主はこの世ではなく神の国の幸い、神の国の民

とされた者の幸いを語っておられるからです。それは人間的幸福(幸福感・満足感)ではなく、神による祝福です。この幸いは主の弟子たちへの説教として語られています。神の国に生きる彼らの幸い為何であるかが語られています。また、主は群衆に向かって語っておられます。真の幸いについて改めて問い直し、深く考え、日ごろ漠然と考えている幸いがいかにもろく根拠の乏しいものであるかということに気付かせ、彼らの目を開き、神の国の価値観、人生観、世界観へと導くための説教なのです。

一、心の貧しい者(3)

最初に出て来る幸いは、心の貧しい者の幸いです。心の貧しさの幸いは、主イエスの語られる幸いの原型です。まず、心の貧しい者こそ幸いな人なのです。愛の無い、自己中心な人というのではなく、むしろ神の前にへりくだった心砕かれた人のことです。他の一切のものによらず、神のみに依存し神に信頼する人です。なぜ、「心の貧しい者」が幸せなのでしょう。それは天の御国が、すでにその人のものになっているからです。「天の国」「神の国」とは支配や統治、主権のことを意味し、その支配や統治が及ぶ領土、国をさします。「神の国」はすなわち、

神による支配、統治のことです。砕かれた心でへりくだって神に全く信頼している〈心の貧しい者〉は、すでに神による恵みのご支配の中に生かされているのです。

二、悲しむ者、柔和な者、義に飢え渴く者、あわれみ深い者、心のきよい者、平和をつくる者（4～9）

悲しむ者がなぜ辛いなのでしょう。それは真摯に自分の罪を神の前に認め、嘆き悲しむ者を、神は必ず豊かに慰めてくださるからです。「神のみこころに添った悲しみは、後悔のない、救いに至る悔い改めを生じさせ」（Ⅱコリント7・10）ます。柔和な者がなぜ辛いなのでしょう。それは耐え忍ぶことによって、〈地を受け継ぐ〉すなわち、神の約束と賜物を得ることができ、御子の御姿に似た者とされるからです（ローマ8・29）。義に飢え渴く者がなぜ辛いのでしょうか。それは、神との正しい関係をひたすら求める者を、神は必ず義と認め、神の心になかなう歩みができるようにしてくださるからです。あわれみ深い人たちは神の義に生き、他者へのあわれみを大切にする人たちです。心の清い者たちは、神に対して二心のない者たちです。平和をつくる者たちは、神との平和によって、人との関係において平和を作りだす人たち

です。シャロームを生み出す者たちで、彼らこそ神の子と呼ばれるのです。

三、迫害される者（10～12）

主イエスは、〈義のために迫害されている者は幸いです〉と言われ、〈喜びなさい。大いに喜びなさい〉とまで言われます。神に従う者が苦しみと迫害を経験することは当然のことなのです。しかも、そのことを喜びなさいと言われます。それは、苦難こそ神に従う者のしるしであり、神の国（神のご支配）がその人のものになっている証拠なのからです。さらに、その時私たちは「地の塩、世の光」（13～14）としての使命を果たすことが出来るのです。そして、〈天においてあなたがたの報いは大きい〉と断言していただきます。だから大いに喜ぶことができるのです。

結論

「なんと幸いな人たちでしょう、あなたがたは…」と言われる主イエスのことばは、この世ではなく神の国の幸い、神の国の民とされた者の幸いを語っておられます。神の国に生きる者とされている幸いを知り、恵みによって積極的にこの幸いに生きる者とされましょう。

研究資料

(宮澤清志)

テキストト

1 群衆 マタイ4・25に描かれた「大勢の群衆」を指すものと思われる。イエスは、弟子たちばかりでなく、イエスに近寄ってくる群衆たちにも同じように神の言葉を語られた。山 この群衆を見て、イエスがなぜ「山」に登られたのかは記されていない。しかし、イエスにとって「山」とは、その節目節目において登場する重要な場所である(マタイ4・8、14・23、15・29、17・1、28・16他)。

3 12 ここに、本日の主題である「幸いの道」が示される。幸い(ギ)マカリオス)とは、単なる「幸せ」という意味とは異なる。この言葉は「神に祝福されている」という意味の言葉であり、それは、時間の変化、状況の変化などによって消滅したり薄められたりする類の幸福ではなく、何によっても消されることなく、またこの世の何によっても取り去られることのない神の祝福の事実である。また、この箇所は、一般に「八福の教え」とも呼ばれている(11、12節を入れると9つある)。しかし、

この「幸い」は、それぞれが切り離されて存在するのではなく、一つの「幸い」に見られる八つの側面という方がよりふさわしい。

3 心の貧しい者 この「貧しい」とは、徹底的に貧しい人のことをいう。「心の打ち砕かれた者」「霊の砕かれた者」(詩篇34・18)に近い状態である。自分の内側により頼むべき何物をもっていない者のことである。このような者をこそ、神はご自分の民として迎え入れられるのである。

4 悲しむ者 ここでは、何を、どう悲しんでいるのかは説明されていない。しかし、聖書に示される「悲しみ」とは、「この世が神を失っていること」に起源を発している。神に反逆しているこの世界や、罪に沈んでいる人間に対する「悲しみ」である。このような者たちに必要なものは「慰め」である。

5 柔和な者 この言葉は、詩篇37・11の七十人訳聖書からの引用であるが、この詩篇では、柔和な人の特徴をいくつかあげている(怒ることをやめ、憤りを捨てること。耐え忍ぶこと。主を待ち望むこと。等)。何よりも主イエスこそが「柔和な方」と呼ばれている(マタイ21・

5) そのような者たちに用意されているのは「新しい地」(Ⅱペテロ3・13等)である。

6 義に飢え渴く者 義とは、神のご性質の中心をなす言葉であり、神が人のために備えられたものでもある。「救い」と置き換えてもいい言葉でもある。ここで、義に飢え渴くとは、神がキリストを通して人間に備えられる救いを熱心に求める人のことである。神はそのような人に救いを満たしてくださるのである。

7 あわれみ深い者 あわれみとは「はらわたまで痛んで下さる神の愛」であって、他の人に対する具体的な行動へとつながる愛である。単なる同情や感傷ではなく、行動を伴うのである。そのようなあわれみをもって隣人に接する者は、あわれみを受けるのである

8 心のきよい者 「きよい」という言葉は混じりけがないという意味を持つ。人間の最も奥深い部分まで純粹であることをさす。同時に「きよい」とは「分かれたない」という意味も併せ持つ言葉であり、「二心」でないことを指す(ヤコブ4・8)。そのような者に与えられた約束は「神を見る」であって、直接神とお会いするという約束である(Ⅰコリント13・12)。

9 平和をつくる者 平和とは「すべての被造物が、創造者との関係およびお互いの関係において、それぞれにふさわしい位置におかれること」である。人は、イエス・キリストを通して与えられる神の和解を受け入れ、和解の福音を携えて積極的に遣わされるのである(Ⅱコリント5・20)。

10 義のために迫害されている者 「義」とは、神が御国の民のために備えられた救いのみ業を指す。ペテロも「たとえ義のために苦しむことがあっても、あなたがたは幸いです。」(Ⅰペテロ3・14)と語っている。神はそのような人たちに、神の御国を約束されているのである。11-12 この箇所は10節の展開である。特に、これまで「その人たちは」と三人称で述べられていたものが、この節では「あなたがたは」と二人称となっており、弟子たちがやがて「ののしり」「迫害」「悪口」に直面するであろうことを率直に述べる。しかもそれは「わたし(キリスト)のため」(11)のものである。

参考図書 中沢啓介「マタイの福音書註解」(恵友書房)、D・M・ロイドジョンズ「山上の説教」(いのちのことば社)

聖書

ガラテヤ5・16～26

タイトル

聖霊の実

暗唱聖句

御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。

目標

御霊の実を結ぶ者となる。

ガラテヤ5・22～23

導入

(和田牧子)

皆さんはぶどうは好きですか？ ぶどうにもいろいろな種類がありますね。濃いむらさきや、赤むらさき、黄みどり色のぶどうもあります。ゆたかな栄養たっぷりの土地から養分をもらい、みきがまっすぐに伸びて、枝が何本も広がりぶどうの実がなります。今日のお話は、そんなぶどうの実をイメージしながら聞いてくださいね。

ペンテコステ

イエスさまが十字架にかかって死なれたあと、三日目によみがえられて、四十日間人々の前にあらわれなさいました。そのあいだいろいろなお話をされましたが、ひとつのことは「聖霊があなたがたの上にのぞむとき、力をうけます」ということでした。オリブ山で人々に見

守られながらイエスさまは天にのぼっていかれました。

さあ、イエスさまが目の前からいなくなってしまうて弟子たちはどうしたでしょうか。「聖霊がのぞみます」との約束を信じて毎日みんなが集まって祈りしたのです。そして祈り始めてから十日目、ついに集まっていた人たちの上に聖霊がくだったのです。聖霊に満たされた弟子たちは勇気百倍力強くイエスさまのことを伝えるようになりました。聖霊がくだって教会が誕生した日を記念してペンテコステと言います。

聖霊って？

聖霊がくだったということですが、「今の私たちにどんな関係があるの？」と思いますか。イエスさまは十字架にかかる前に弟子たちに「わたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいままで、あなたがたとともにいるようにしてくださいます」とお話しになりました。イエスさまは天にのぼられ弟子たちの目の前から見えなくなりました。しかし約束どおり、もう一人の助け主として弟子たちに聖霊をあたえてくださいました。それと同じように主イエスさまを信じおしがいしていくわたしたちに、いつも

聖霊なる神さまがともにいてくださって助けてくださっているのです。わたしたちの心のなかに聖霊がいてくださるので、聖霊によって歩むときに、小さなわたしたちをとおしても神さまのすばらしさを証しすることができるようになるのですね。

御霊の実

今日の聖書の箇所にも「御霊^{みたま}によって歩みなさい」と書かれています。御霊と聖霊は同じ意味です。聖霊によって歩むときにどんなことが起こるのでしょうか。そこでぶどうの実を思い出してほしいのです。ぶどうは豊かな肥料がまかれた土地からたくさん枝が伸びてたくさんの実を結びます。ひとつのフサのなかにもたくさん、聖霊とともに歩むわたしたちは神さまのすばらしさをあらわすいろいろな実を結ぶことができるのです。

その代表が今日のみことば「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」です。むずかしいことばがならんでいるので、少しわかりやすく言いかえるとこんな感じでしょうか？ 家族やお友だちを大切にする心、心からうれしいと思える気もち、心が

おだやかで安らいでいること、ブンブンすぐにおこらないひろーい心、困っている人のお手伝いをする事、何かをするときに良い動機ですること、まじめでごまかないこと、やわらかくなごやかな心、自分を上手にコントロールできることなどなど。

これらのことを自分の努力や頑張りではなく、聖霊が心の中にいてくださるなら、聖霊がそのようにわたしたちを変えていくてくださるのです。どうして小さな種から大きなぶどうの実が結ばれるのかふしぎだと思いませんか？ それと同じように、イエスさまを信じて聖霊をおむかえするときに、聖霊が豊かな良い実を結ばせてくださるのですね。実を結ぶ力は聖霊にあります！

結び

もちろんわたしたちは悲しいとき、つらいとき、うまくいかないなあと思うときもあります。でも助け主である聖霊は「なぐさめ主^{なぐさめ}」でもあります。いつもともにいてくださいます。勇気をもって歩んでいきましよう！

♪栄光から栄光へ♪

(ミクタムプレイズ&ワーシップ17)

聖書 ガラテヤ5・16～26

テーマ 聖霊の実

序論

(高橋頼男)

キリストの救いを受けた者が目指すべき目標は、救いの成長でありキリスト信仰の円熟です。「私たちはみな：一人の成熟した大人となつて、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです」(エペソ4・13)とあるように、私たちがキリストの身丈にまで成長し、大人になることです。その実質は御霊の実を結び身につけることです。そして、それを可能にしてくださるのはご聖霊です。キリストのからだである教会の交わりと奉仕を通して、キリストにある者の人格に麗しい徳と品性の実を結ばせてくださるのはご聖霊のお働きによるのです。これらは「御霊の実」と言われています。私たちは律法や人間の修養や努力で、外から内を造ることによつてこれらのものを身に付けることは出来ません。御霊は律法とは反対に、内から外に向かつてふさわしいかたちを生み出されます。命ある植物は自然に花を咲かせ実を結んでいきます。自分の弱さや罪深さを知らされる度に神の御前に出

て悔い改め、一つ一つ決断をもつてご聖霊に明け渡して委ね、御霊の導きに従ひ続けていくのです。そのような日々の歩みにおいて、私たちの内と生活の中に時が来れば麗しい実が結ばれていくのです(詩篇1・3)。異教と偶像の国である日本において、キリストの証人として伝道しようとするとき、キリストの信仰が私たちの人格や品性にまで及ぶのでなければ説得力のある働きが続けることが出来ません。人々は、キリストが神であることが分からなくても、その人が本物のキリスト信仰を持っているかどうかについては見抜く力を持っています。また、多くの場合日本人は人を通して神を見ます。そして、神につまずく前に人につまずいてしまうのです。人を見ずに神を見て下さいねということ自体がまずきにしかなりません。

ここには九つの「実」が出てきます。そして、それらは三つのグループに分けられます。

一、愛、喜び、平安(22)

これらは、神の前に私たちの内に結ばれる聖霊の実の現れです。神に愛されていることを知って神を愛し、神を喜び神に喜ばれるものとなり、神との平和が確立され

て平安に溢れ、私たちの生活に愛、喜び、平安（平和）の実が結ばれていきます。み言葉と祈りを通して、聖霊による神との豊かな交わりに進みましましょう。

二、寛容、親切、善意（22）

これらは、人と人との関係の中で私たちの内に結ばれる御霊の実の現れです。罪深い人間にとって人間関係はなかなか厄介で面倒です。しかし、私たちはキリストの体の一肢体として召されていることを覚え、他の肢体との係わりの中に生きることが大切です。キリストにある人間関係、神の家族とされた人々は、私たちが選んだ好きな人、居心地の良い人、愛しやすい人ではありません。神が私に押し付けられた人たちです。彼らと積極的にかかわりを持ち、交わり、共に奉仕に与りましましょう。そこで、彼らに教えられ励まされ、主にある忍耐を学び、赦される幸い赦すことの自由と解放を身につけていくのです。傷つけられた人が本当に癒されるのは、傷つけた人によつてです。キリストの共同体の中で聖霊により頼みつつ、キリストの愛を具現化、現実化させていただきましましょう。

三、誠実、柔和、自制（22・23）

これらは、自分自身に結ばれてくる御霊の実の現れで

です。教えられやすく柔らかな服従に満ちたところこそ柔和です。終わりの時代は、自己中心で欲望追及の時代です。欲望にすぐ手が届く環境（インターネット等）がそこにあります。何につけても、セルフコントロールが決め手です。欲望にかられてしまう自己を制する自制、節制、ブレーキの利く御霊の人の特徴を備えさせていただきますましましょう。

これら九つのものは単数の「実」と言う言葉でまとめられています。つまり、これらはただ一つの「御霊の実」なのです。これらの御霊の実の諸相は、どれもみなキリストのうちに見られるものです。そして、キリストが御霊に満ちて歩まれたように、私たちもまた御霊のご支配を受け、御霊に導かれて歩む中に御霊の実が結ばれていくのです。神の前に、人間関係の中で、自分自身との付き合いにおいて、御霊に導かれ、御霊によつて歩み、御霊によつて進みましましょう。

結論

聖霊の導きの中に生き、神との交わりの中で、御霊の実を結ぶ歩みをしていきましょう。

研究資料

(宮澤清志)

テキスト

16～17 御霊によって 佐竹明は、この個所を「霊の指揮下に」と訳している。「御霊」とは、「御子の御霊」(4・6)である。「御霊によって」とは、御霊に支配された生活、自らを御霊の指揮下においた生活のことであり、御子の霊である聖霊に自らの全権をゆだねた生活、という意味であろう。また、**歩みなさい** とは、歩み続けるという継続の意味を持っている。**肉の欲望** 「肉」とは、単なる「肉欲」ではない。肉とは、神から離れた人間の自己中心性と、そこから生じる具体的行動の原動力である。このような自己中心から生じる欲望は、御霊による生き方と対立する。「御霊」と「肉」とは互いに逆らいあう行動原理なのである。

18 **律法の下** ここでの「律法」は「モーセの律法」というよりも、人間を縛る法則性、掟の代表としての「律法」であり、そのようなものにがんじがらめにされた人間の状態を意味する。人間は、「御霊に導かれる」時にのみ、この律法から解放され、自由にされることができ

のである。そしてこの自由は、キリストが私たちに与えてくださったものである(5・1)。

19 ここから21節までで、パウロは、肉の支配下で生じる生活の実際的な結果が列挙されている。このような個所は、他にはローマ1・29～31、Iコリント5・10～11等に述べられている。**淫らな行い、汚れ、好色** この3つの悪徳は、性的な罪のリストである。昔も今も、性生活の乱れは目を覆うばかりだったのであるうか。この3つの項目については、明確な線引きはなかなか難しい。

20～21 **偶像礼拝、魔術** この2つのリストは、異教的な罪についての指摘である。**敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ** 以上の8つのリストは道徳上の罪といえることができる。これらの罪は、共同体の成立を根底から破壊する罪である。特に、最後の**ねたみ** はこれらの罪の総括的な位置づけであって、26節の結びの部分にも登場することから、パウロはガラテヤの諸教会の問題点を「ねたみ」に見ていることもうかがえる。また、これらの罪はすべて自己中心から由来する罪であることも特徴的なことである。**泥酔、遊興** この2つの罪は、不摂生の罪としてあげられる。以前にも言ったよ

うに 第2回目のガラテヤ訪問の時(使徒18・23)であると思われる。**神の国を相続できません** 神の国の相続人(3・29)であるキリスト者は、これまで述べられてきた肉の行いから決別していなければならない(24)。

22〜23 以上の悪徳リストに引き続き、「御霊の実」のリストが語られる。肉のわざ(19)の「わざ」が複数形であるのに対して、「御霊の実」の「実」は単数形で書かれている。聖霊は、ある人には愛を、また別の人には喜びを、という実を与えられるのではない。御霊の実は一つであり、そしてこれから語られる徳目は一つひとつ切り離されるのではない。**愛** パウロがこの言葉を御霊の実の筆頭にあげたことに異議はない。Iコリント13章をはじめ、この書簡でも、人間に対するキリストの愛(2・20)、人間自身の愛(5・6)としても描かれている。**喜び、平安** この2つは人間の感情的なものと受け止められやすいが、これらは聖霊によって与えられる賜物である。**寛容** この語は「辛抱強さ・忍耐強さ」という感じを含んだ言葉である。**誠実**(^{ギリ}ピステイス) 人間の神に対する信仰という意味に訳される。しかし、この徳が人間に向くならば、それは「誠実・忠実」という意味に

なる。このようなものに反対する律法はありません 御霊によって歩む者の行いである「御霊の実」は、律法が要求したものと結果的には合致する。

24 **キリスト・イエスにつく者** キリストと共に死に、キリストと共によみがえらされた者を指す言葉であつて(ローマ6・3〜11)、キリストがわたしにとどまり、わたしはキリストにとどまると告白する者(ヨハネ15・4)である。**十字架につけた** ここで用いられている動詞は、過去の成就された行動を指し示す言葉であり、回心、もしくはバプテスマの時を指すものと見られる。

25〜26 **私たちは、御霊によって生きているのなら** わたしたちは御霊によって生きているのだから、という意味。**御霊によって進む** 「進む」とは、規則に従って、まっすぐに進む、という意味であり、御霊の原理に従ってまっすぐに行動する、ということを目指す。「生きる」が御霊の原理を指す言葉であるのに対して、「進む」とは具体的な行動を指している。

参考図書 佐竹明「ガラテヤ人への手紙」(現代新約注解全書)、藤原藤男「ガラテヤ書の研究」(聖書の研究社)

聖書

マタイ5・13〜16

タイトル

地の塩、世の光とされた恵み

暗唱聖句

あなたがたは世の光です。マタイ5・14

目録

地の塩、世の光として生きる。

導入

(飯田勝彦)

先週はペンテコステ礼拝でした。イエス様は弟子たちに父なる神様が約束された聖霊を待つように言われ、その通りに聖霊が降りました。イエス様は、いつも私たちに生きる力をあたえるメッセージをしてくださいます。私たちのことを真剣に考え、励ましてくださるイエス様が共にいてくださることは本当に幸いですね。

イエス様は私たちがよく知っている鳥や花などの自然界のものや日常生活によく使うものなどを例えにしてお話しをされました。今日の個所には、塩と光を用いて皆さんに素晴らしい生き方を教えてくださいます。

あなたは地の塩です

塩は、私たちにとって、とても身近な物ですね。イエス様は、弟子たちに「あなたがたは地の塩です」と言わ

れました。今朝、皆さんにも同じように言われます。これはどういう意味でしょうか。

塩は、私たちの生活には欠かすことのできない物で毎日食べています。でも、塩だけを食べる人はいないでしょう。「今日の朝ご飯は塩だったよ。」っていう人、聞いたことありませんね。塩は多くの場合、料理の調味料などに使われます。塩気のない料理は、食べても美味しくないありません。皆さんも自分の好みで塩を加えることがあるでしょう。でも、塩がメインではありませんね。塩は丁度良い塩加減になって初めて、料理を引き立たせるのです。塩は、縁の下の力持ちです。ですから塩はかたまりではなく、混ざる物の中に溶けてこそ、その力を発揮します。また、梅干や漬物、お正月で食べるかずの子などは、長くもつ保存食です。保存食には、たくさん塩が使われています。塩は物を腐ることから守る効果があります。

イエス様を信じるクリスチャンは地の塩として素晴らしい役割が与えられています。それは、生活の中で周りの人たちの中に溶け込み、その人の良い所を引き出していくのです。皆さんと関わるお友だちが活き活きして行

くなら嬉しいですよ。皆さんのイエス様の愛に生かされる姿を通して、クラスにいいじめがなくなり、みんなが仲良くなつていくなら本当に素晴らしいことです。それこそ、腐敗を防ぐ塩の役割です。

イエスさまは、あなたを地の塩としての役割を与えてくださり、素晴らしい人生を約束してくださっています。自分が地の塩とされていることを信じましょう。

あなたは世の光です

イエスさまは「あなたがたは世の光です」と言われました。もし、光がなかったらどうでしょうか。周りには真つ暗で、学校や教会に行くのも大変です。でも、光があれば歩くこともぶつかることもありません。光があれば洗濯物はよく乾くし、電気も作れます。また、光は、植物が光合成をするためには必要です。私たちが光がなければ健康でいることはできません。

そのように光とは、私たちの生活には欠かせないものです。でも、光は私たちの心にも必要です。真つ暗な心だと苦しく、人をも傷つけ暗い人生を送らなければなりません。私たちの心を照らし、救いへと導いてくださる

のがイエス様です。イエス様は「わたしは世の光です」と言われました。光であるイエス様を心に迎えている人は、人々に希望と救いを指し示す永遠の光を持つて歩んでいます。私たちは、光であるイエスさまを多くの人の所にお連れする世の光とされています。私たちを通して、安心して希望が与えられる人がいるなら何と幸いなことでしょうか。

まとめ

今、皆さんも学校やテレビなどで、悲しく辛いニュースをいっぱい聞くでしょう。でも、イエス様は、皆さんの関わる人たちを生かし希望を与える地の塩、世の光として皆さんを用いてくださっています。素晴らしい人生をイエス様が与えてくださっていることを心に留めましょう。

そして、神様はご自身を証するために皆さんを用いて下さいます。地の塩、世の光とされていることを感謝しましょう。

♪イエスさまについていこう♪ (ホ117、イン82)

聖書 マタイ5・13・16 テーマ 地の塩・世の光

序論

(小泉 創)

昨年七月の安倍元首相の事件以降、宗教問題が取り上げられるようになりました。世の中のまなざしは不健全な宗教団体だけでなく、私たちキリスト教会にも向けられています。問題のある団体と、キリスト教会と何が違うのか問われています。教会はイエス・キリストが教えられたように生きているのか、クリスチャンはこの世界でどのような役割をになっているのか問われています。

一、あなたがたは地の塩

今日の聖書箇所は、山上の説教の中の一部です。山に登られたイエス様は、弟子たちと群衆に向かって神が与えて下さる幸いについてお語りになりました。それは世の中で言われている幸いとは全く異なるものでした。私たちはイエス・キリストを信じることで、幸いなものとされたのです。たとえ迫害を受けたり、悪口を言われたりしても、喜びなさい。神様は報いて下さるのだから、

と教えられました。

その人びとにイエス様はおっしゃいました。あなたがたは地の塩です、と。塩は人が生きていくために欠かすことができないものの一つです。身体の中にも欠かせない成分ですし、腐敗防止や、味付け、現代では工業用にも大量に必要で、雪国では道路の凍結防止にも使われます。華々しく脚光をあびるような存在ではないかもしれませんが、全体を生かし、引き立てる存在、しかしなくともなんとかなるものではなく、他のものでは代えることのできない大切な存在、それが地の塩である私たちクリスチャンです。

連日、世の中で報道されていること、どこかで続けられている戦争は人の罪の性質をあらわしています。偽りの宗教は、世の腐敗を助長しこそすれ、きよめることはできません。神は、神を信じる者たちを世の腐敗防止のため、この世界で良いことがなされていくためにお送り下さっています。塩が塩気をなくすということは、不純物が混じって塩の効力が十分に発揮できなくなることを意味します。私たちが遣わされているところで周囲に飲み込まれて、周りの人たちと全く同じような存在になる

ことは塩気を失うことです。塩気がなくならないように、余分なものは神様に取りのけていただき、塩の役目を果たしたいのです。たくさんの人々と力をあわせていくために、神によって塩気を保つ必要があります。

二、あなたがたは世の光

二つめに、イエス様は、あなたがたは世の光です、とおっしゃいました。弟子たちにしてみれば、世の光はイエス様以外に考えられません。光が周囲を照らし、やみを追い払うように、イエス様が世のやみをあきらかにし、新しい世界をおつくりくださると信じていました。そのイエス様があなたがたは世の光です、とおっしゃるのです。

隠れ込まず、誰の目もはばからず山の上にある町のようであるように。升の下に明かりを隠さずに、家のすみずみを照らすようにと教えられました。弟子たちがおかれたところの周囲を照らすことを、イエス様は願っておられます。それは弟子たちが遣わされているところで、神にある良い行いを続けることです。自分たちが注目されてほめられるためではありません。天におられる父が

あがめられるためにです。

私たちの生きているところでもいろいろな問題があります。悲しみや暴力、正義が失われ、あわれみが必要とされ、平和も失われているかも知れません。しかしそこに私たちがいることで、神がみわざをあらわしてくださるとしたら、素晴らしいことです。誠実に、真実に生きること、働くこと、自分の欲望のためではなく、他者を生かすための働きをすること、小さな事に心をとめること、力あるものに迎合せず、弱っている人たちのために心を痛め、祈り、手を差し出すこと。私たちの力が及ばないこともたくさんあることでしょう。しかし世の光であるイエス・キリストがともにおられることに期待したいのです。

結論

私たちが今いるところで、これまでもそうであったように、これからもますます地の塩、世の光として生きていきましよう。神が私たち一人一人をお支え下さり、主の御名があがめられますように。

研究資料

(宮澤清志)

主イエスから「幸いだ」と語られる御国の民は、この世においてどのような存在であるかを明らかにするために、イエスはこの教えを語られた。

テキスト

13 あなたがたは地の塩です この語は、他の並行記事には登場しない、マタイ特有の言葉である。ギリシャ語の語順も、あなたがたは が冒頭に置かれており、強調して「あなたがたこそ」と訳すべき言葉である。また、地の塩です という言葉にも注目したい。これは「地の塩にならなさい」という命令ではなく、約束の言葉でもない。天の御国の民は、既に、塩になっているのである。もし塩が塩気をなくしたら、… この文は、並行記事であるマルコ9・50とルカ14・34・35にも登場する。塩気をなくすとは、直訳すれば、「愚かになる」という意味である。一般的に、塩には「腐敗を防ぐ、清める、味をつける」等、様々な効能があるとされている。塩には少なくとも11の役割があると指摘する学者もいるが、ことさらにその中のどれかを強調し、聖書に読み込むことは

あまり意味がない。この個所はそのすべてを網羅すると考えられる。同時に塩には保存作用がある。キリスト者もこの世界が腐敗して破滅するのを防ぐ働きが求められているといえる。しかし、もしこの塩が、塩としての価値がなくなり、ただの塊となってしまうたら、ただ外に捨てられて人々に踏みつけられる、すなわち役に立たないものとして破棄される、というのである。

14 あなたがたは世の光です 前節同様、ここでもあなたがた が強調された文体となっている。世の光 ここでいう「世の光」とは、何だろうか。マタイの語る「世の光」とは、この山上の説教の直前の「闇の中に住んでいた民は／大いなる光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に／光が昇る。」(4・16)のみ言葉のイメージを持っているのではないかと考えられる。そしてこのイザヤ書のみ言葉は、イエスによって成就したと考えているのであろう。とすれば、マタイの「世の光」の理解は、まず第一には、本来イエスご自身を指す言葉ではないかと考えられる。しかし、マタイはここで「あなたがたは」と付け加える。それは、キリスト者は、何らかの努力によって、自らが「世の光」となるのではないとい

うことを示すのである。キリスト者が「世の光」であるのは、この「わたしは世の光です」(ヨハネ8・12)と語られるお方を内に宿すことによって可能となるのである。

15 この個所については、並行記事として、マルコ4・21、ルカ8・16、11・33がある。**升の下に置いたり** 当時、ランプを消す時は、吹き消すと煙つてくさいから、升をかぶせて静かに消したそうである。このことから、通常考えられている「愚行」という面と、「輝いている火は消してはならない」という両面が考えられる。いずれにしても、キリストの火をいただいている私たち自らが、その火を消してはならないことを語っている。

16 **あなたがたの光** ここでの「光」とは、自らを「光」と語られた(ヨハネ8・12)内住のキリストのことである。キリストを信じ受け入れた時、キリストの光を内に宿するのである。**輝かせ** 日本語のもつ響きからは、人間の側でがんばって良い行いをするという意味に理解できそうであるが、より原文にふさわしく訳すと「光は輝けよ」「光に輝いていただけ」という訳となる。ここで大切なことは、人間の側では自然に輝く光を覆い隠してはな

らない、ということである。**あなたがたの良い行い** キリスト者の善行は、内に住んでおられるキリストが輝くことによってもたらされる。**良い**(**ギ**カロス) とは、単に良いということだけではなく、美しさ、魅力的、といったものも包含しており、多くの人々を引きつけるものである。それが御国の民の態度や行動である。**天におられるあなたがたの父をあがめるように** キリスト者は、この世から選り分けられた者である。それは、神の光をこの世に輝かすためである。キリスト者が神の光を輝かすのは、「天におられるあなたがたの父」があがめられるためなのである。

ところでイエスは同じ山上の説教の中で「人前で善行をしないように」(6・1)と教えている。このことは、この個所において語られた言葉と矛盾するのではないかとと思われる方もいるのではないだろうか。しかし、両者の間には本質的な相違が存在する。6・1の教えは「人に見られるため」すなわち自分自身に栄光を帰するため、の行為であるのに対して、この個所は神に栄光を帰するための行為なのである。

参考図書 5月21日分と同じ。

聖書

マタイ6・7～13

タイトル
暗唱聖句

喜んで主の祈りをささげよう！
御国が来ますように。みこころが天で行
われるように、地でも行われますように。

マタイ6・10

目標

意味を知って「主の祈り」をささげる者
となる。

導入

(飯田勝彦)

皆さんは「まさかのときの神頼み」という言葉を聞いたことがありますか？ 嫌なことや辛いことがあったときだけ神様を頼りにするという都合の良さを現した言葉です。私たちは「まさかの時の神頼み」ではなく、毎日、神様を頼りにしているでしょう。頼りにしている人は、祈る人です。

皆さんは、お母さんと会話するとき「ねえーご飯ちょうだい。おやつちょうだい。オモチャ買ってえ。服買ってえ。」とお願いばかりしていますか。学校で楽しかったことや、苦しかったことなども話すでしょう。祈りとは、神様との親しい交わりです。

今日は、祈りについて一緒に考えましょう。

イエスが教えてくださった祈り

教会の礼拝では、毎週「主の祈り」を祈るでしょう。皆さんの中には、毎日祈る人もいるかも知れません。「主の祈り」は、実はイエス様が教えてくださった祈りです。イエス様はある時、弟子たちに祈りの心得を教えてくださいました。

- 一．人に気に入られるたに恰好をつけた祈りをしない。
- 二．父なる神様の前に独りになって祈る。
- 三．くどくど祈らない。

「お祈りは苦手です」という人がいますが、皆さんはどうですか？ 祈りとは、ありのままの姿で神様の前に出て、素直な気持ちをそのままに伝えれば良いのです。「神様、今日は学校で嫌なことがありました。僕の心を守ってください」、「神様、おばあちゃんが入院します。早く元気になるようにしてください。」、「先生の先生が忙しくしています。先生の健康を支えてください」。このような祈りは、シンプルな祈りで神様は喜んで聞いてくださいます。イエス様は、主の祈りを通して身近に神様と親しめるようにしてくださいました。

突然ですが、愛とは何ですか? 「寛容、情深い、ね

たまない、高ぶらない」です。愛の中には、いろいろな素晴らしいものが含まれています。そのように主の祈りも「賛美、みこころの実現、必要のため、悔い改め、守り」が含まれています。祈りとは神様への「お願い」だけではないことが分かります。

①賛美「天にいます私たち父よ。御名が聖なるものとされますように。」

神様を賛美することも祈りです。皆さんは、よく賛美をしているでしょう。皆さんの心からの賛美を神様が祈りとして受け止めくださり、喜んでくださいます。

②みこころの実現「御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように。」

神様は、私たちを素晴らしい恵みによって治めようと願っておられます。その神様のみこころが私や世界に実現するように祈りましょう。

③必要のために「私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください。」

毎日、食事ができることは当たり前ではありません。それは神様が私たちの必要を知ってくださるからで

す。与えてくださる神様に感謝しましょう。

④悔い改め「私たちの負い目をお赦しください。私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します。」

イエス様は「敵を赦し祈りなさい」と言われました。祈りは赦し愛する力を与えてくれます。また、自分が罪を犯したなら素直に神様に悔い改めましょう。

⑤守り「私たちを試みにあわせないで、悪からお救いください。」

私たちの周りにはたくさんの誘惑があります。それから守られるように祈りましょう。

まとめ

私たちは空気がないと生きて行けません。そのように、神様に造られた心は、祈りを通して神様につながっていないと苦しくなってしまう。イエス様は私たちが祈りを通して神様につながり、いろいろなことを話しができるように主の祈りを教えてくださいました。神様と関わると、心がさらに豊かにされます。主の祈りを覚えて祈り続けましょう。

♪ 3つのやくそく♪ (ホ120、イン50)

聖書 マタイ6・7・13 テーマ 主の祈り

序論

(石田高保)

ルカ11章によると主の祈りは、弟子たちが祈り方を教えて欲しいと願ったときイエス様が教えたものです。

一、主の教えて下さった祈り

「あなたがたの父は、あなたがたが求める前から、あなたがたに必要なものを知っておられるのです」、主みずからがこのような信仰に立つておられたことは、神の子なのだから当然だとしても、驚くべきは私たちもその信仰に立てると保証している点です。親というものは、子どもが必要としているものをよく知っています。私たちの必要については、こちらから申し上げなければ神がわからないのではありません。祈るのは、私たちの必要なものについての情報を提供するためでもあります。また「異邦人のように、同じことばをただ繰り返してはいけません」、祈る回数が多ければ多いほど叶えられるというものでもありません。熱心に祈らなければ、神様は必要を満たしてくださらないわけでもありません。そ

こでイエス様はクリスチャンの標準となる祈りについて教えて下さいます。人間の祈り得る最高の祈り、究極の祈りです。

二、生活に密着した祈り

第1は、神様を賛美する祈り。「御名が聖なるものとされますように」、神の素晴らしさができるだけ多くの人によってあがめられることを祈る。「御国が来ますように」、より多くのクリスチャンが互いに愛し合う世界が来ますように。また、やがてキリストが世界を直接支配する時代が来ますように。「みこころが天で行われるように」、地でも行われますように、神のご計画が地上で遂行されますようにという壮大な祈りを要求されています。

第2は私たちの必要を求める祈りです。ここには私たちのありとあらゆる必要、霊的、精神的、肉体的、物質的な必要いっさいが含まれます。毎日、食べるものを与えて下さいと祈るように言われています。私たちは文字どおりの意味で毎日祈ることが求められています。食べられること、必要なものが手に入ることは、当たり前のことではなく、ことごとく神様からのプレゼントであるという信仰の姿勢を、この祈りは勧めています。

第3は、赦し赦されるための祈りです。執り成しの祈りも含まれ、対人関係に関する祈りです。〈負い目〉は、ルカ11・4では「罪」となっていますから、自分の罪という借金を赦して下さいという意味。〈私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください〉の後にあるということは、この祈りも毎日するようということでしょう。つまり私たちは毎日誰かを赦したり、赦されたりする必要があるということになります。一日のうち、何人かの人たちと会う中で、カチンとくることがあるかもしれませんが。あるいは以前の出来事を思い出して腹の立つことがあるかもしれません。あるいは人に傷つけられたことで赦せない思いになるかもしれません。そのとき私たちはどういう選択をするのでしょうか。いつか仕返しをしてやろう、こんど会ったらこう言い返してやろう、相手が頭を下げてくるまでは赦すまいと思うのでしょうか。私たちは誰かを赦さなければならない存在です。「もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してください…」（14）、もし人を赦さないままであれば、今度は私たちが神様から赦してもらえません。それはあたかも自分で毒を飲んでおきながら、相手が害

を受ければいいと思いつ込んでいるようなものです。

また私たちは誰かを赦さなければならないとともに、神からも人からも赦されなければならない存在です。私たちが何らかの罪や過ちを犯したなら、ただちに悔い改め、神様から赦していただくなければなりません。一日に少なくとも一回は悔い改めの祈りをしたほうがよいでしょう。思い出せない時もあります。それでも「自分の気づかないところで罪を犯しているかもしれない」という謙虚さをもって、神の赦しを求めよう。「だれが自分の過ちを悟ることができるでしょう。どうか隠れた罪から私を解き放ってください」（詩篇19・12）と。

第4は、守られるための祈り。悪しき者、つまりサタンの誘惑から守ってくださいという祈りです。ここには私たちが誘惑に弱いという前提があります。残念ながらどんな人でも、どんな誘惑が来ても自力ではねつけられるという強さは持ち合わせていません。神の恵み、神の力が必要だからこの祈りが必要なのです。

結論

主の祈りにあらわされた祈りの基本形を身に着け、実生活に応用してゆきましょう。

研究資料

(小平徳行)

ここは「主の祈り」と呼ばれ、イエスが祈りの態度と祈るべき内容について教えている所である。私たちはこの祈りをささげるだけでなく、意味を味わいつつ、日々の生活において、自分の信仰として歩みたい。主の祈りの前半は神に関するもので、後半は人の必要に関するものである。この順序は大切である。

テキスト

7-8 ここでイエスは熱心な祈りを否定されたのではなく、無意味なくり返しは不必要であることを言われた。父なる神は私たちの必要はご存じであるから、信頼を持って祈るべきことを教えている。

9 父(✠パテール) アラム語では「アバ」であり、幼児が父親に話しかける時の言葉。神に対して最も深い親しみを表す「アバ」という言葉をもって祈るように教えたのはイエスが初めてであった。神は恵み深い父親として一人一人に限りない愛と関心を持ち、喜んでその祈りを聴こうとしているお方である(マタイ7・11)。私たちの主の祈りは個人の祈りだけでなく教会の祈りでもある。

る。したがって、この祈りは神の家族を、とりなしの祈りと配慮をもって愛することを教えている。御名が聖なるものとされますように これは最も重要で基本的な求めであり、信仰生活の秘訣である。御名 神の本質、權威、立場などあらゆる面を含めた「神ご自身」を指す。聖なるものとされる ここで救われているのは「聖別する」という意味の言葉。したがってこれは、神が全被造物から区別され、全世界が神を尊び、賛美し、礼拝し、感謝するようにという求めである。

10 御国が来ますように キリスト者は、やがて来る神の国の先取りとして、現在、キリストの豊かな支配を味わっている。この祈りは神の支配が自分自身のうちに拡大されること、そして宣教の進展により、人々が回心すること、さらにキリストが再臨され、天の御国が完成することを求める祈りである。みこころが…行われますように 地上で起こるすべての事柄が、神の望む通りに運ぶようにとの願いである。私たちは、自分を捨てずには、神のみこころを行うことを真剣に求めることはできない。これは従順を学ぶ祈りであり、イエスのゲッセマネの祈りにも共通する。ここまでの神に関わる祈りは、人

の生き方を根本的に変える。この祈りを真実にささげるためには、祈りの一つ一つに「私のうちに、私を通して」と付け加え、自らを神にささげるべきである。

11 私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください 私たちはこの祈りにおいて、自分のいのちと全宇宙が神に支えられていることを覚えることが大切である。物質的な必要のために祈ることは自らが神に依存していることを認め、神をあがめることになるのである。**日ごとの糧** その日、その日に必要な食物。かつて神はご自身の民のために、荒野で40年間マナを備えられ、毎日の必要を満たされた。ここでは食物に限らず、生活に必要なすべてを含んでいると考えてよい。神は霊的な必要と同様に物質的な必要も配慮してくださるお方である。

12 私たちの負い目をお赦しください。私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します。負い目〔ギ〕オフェイレーマ〕は借金に対して使われたが、次第に、神に対して負い目をもっているという意味で使われるようになった。他の福音書では、「罪」〔ギ〕ハマルティア〕が使われている（ルカ11・4）。クリスチャンは信仰によって義と認められたが、なお罪の赦しを必要としている者で

ある（ヨハネ13・10）。**赦します** この動詞の時制は不定過去であり、完全に赦し、何のこだわりもないというニュアンスが込められている。イエスは他人の罪を赦すべきことを14・15節や、たとえ話でも語っている（マタイ18・21・35）。神の赦しの恵みを深く味わった者は他者の罪を赦すことができる。

13 私たちを試みにあわせなくて、悪からお救いください 私たちがこの祈りをささげなければならぬのは、常に私たちが危険にさらされており（1ペテロ5・8）、罪や悪に対して弱く、自分の力や知恵で打ち勝つことはできないからである。これは自分の弱さを認め、救ってくださいる主に信頼する祈りである。欄外注にあるように、「国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン」を加える写本がある。最古の写本には欠けているが、初代教会は、主の祈りを公の礼拝にふさわしく整えるため、この頌栄を付け加えた。私たちが祈り求めるのは主の御力に根拠があるためである。

参考図書 中澤啓介『マタイの福音書註解（上）』（いのちのことば社）、J・I・パッカー『私たちの主の祈り』（いのちのことば社）他

聖書 マタイ5・43～48

タイトル 天の父の愛

暗唱聖句

父はご自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからです。

マタイ5・45

目標

天の父なる神の愛を知り、どんな人をも愛する者となる。

導入

(今田雅子)

今日は父の日ですね。お父さんのいる人もいない人も、皆の周りにいて皆のことを思ったり考えたりしてくれる人に感謝できたらいいですね。

天の父なる神様ってどんな方

さて、お祈りの時に「天のお父様」「天の父なる神様」って、教会学校の先生が言っていることがあるよね。天の父なる神様ってどんな方だと思いますか。この世界を造られ、何でも出来て、何でも知ってる方。心が広くて、愛してくれる方。色々あると思うけどイエス様は「父はご自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、正しい者にも

正しくない者にも雨を降らせてくださるからです」と言われました。これってどういうことかな？

例えば、二人の人がプランターにミニトマトの苗を植え、並べて置きました。一人は悪い人、もう一人は善い人でした。天の父なる神様は、悪い人のミニトマトに太陽の光を当てないで良い人のミニトマトにだけ太陽の光を当てられるでしょうか？ 二つ並んで置いてあつて片方だけずっと日が当たってないなんてこと、ないよね！ 誰かが日を遮っていたら別だけどね。だから、天の父なる神様は、えこひいきされない方、公平に恵みを下さる方なのです。さらに、敵をも愛する完全な方だって言われています。けれど、もっとはつきり天の父なる神様を知ることができるでしょうか？ できまゝす！ それはイエス様によってなんです。「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである」(ヨハネ1・18)。

ひとり子イエス様に注目！

父なる神様をあらわす為に、天から遣わされたイエス様に注目！ イエス様は目に見えない神様を見える形であらわす為に、その生涯の全部で完全に従われたのです。

6月

18日 礼拝メッセージ例

だから、イエス様を見れば、父なる神様が、どんな方か、その行動、ことば、生活の全部で知ることができるのです。

イエス様はお生まれになった時、ベッドではなく飼葉桶に寝かされました。それは、どんな人でも近づくことができる神様の愛のあらわれなのです。そして、イエス様は貧しい大工の家で育たれたので、貧しい生活の苦しさや悩みを経験し、人としての悲しみや痛みの解る方でした。だから、神様はどんな悩みも理解して慰めることができる方だと言うことがわかります。そして、一人ぼっちの人のそばにいて歩み、病氣の人を癒されたので、神様はやさしくて助けの必要な人を支えられる方だと言うことがわかります。そして、最後には、十字架に架けられ殺されました。けれども、自分を十字架につけた人たちを前にして「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです」と祈られました。これは自分の敵を赦し、迫害する者の為に祈られたイエス様の愛なのです。イエス様は罪だらけの私たちの為に、身代わりになって十字架でいのちを投げ出して下さいました。それはイエス様をこの地上にお

くって下さった神様の大きな大きな愛なのです（ローマ5・8）。

私たちはどうしたらいいの？

初めに話したように、天の父なる神様は、悪い人は愛されないという方ではありません。すべての人に公平なお方です。だから、イエス様は「自分の敵の為に祈って愛するんだよ。親切にするんだよ」と言われるのです。でも、意地悪されたり、嫌なこと言われたり、無視されたり、「あんな奴いないと良いのに、いつかきつと仕返ししてやる」って思いませんか。私たちは自分の敵（嫌な人）の為に祈って愛することなんて出来ません。でも、自分の思いや考えで生きるのではなく、イエス様が私の為に十字架で死んで下さったことをいつも忘れないで、「イエス様に倣って歩む人にして下さい、どんな人も愛することが出来るようにして下さい」と祈りましょう。イエス様は必ず助けて下さって、そのことをして下さいます。

♪愛をください♪（イン67）

聖書 マタイ5・43～48 テーマ 天の父の愛

序論

(福井文彦)

この箇所は、山上の説教の5・17～20の解説(適用)として、イエスが旧約の律法の中から引き出された六つの問題の最後です。その最後に、隣人愛を取り上げておられることは、決して無意味なことではありません。律法は、結局愛に尽きるからです。

一、敵を愛せよ

当時、律法学者やパリサイ人は、となりひしあなたの隣人を愛し、あなたの敵を憎め」と教えていました。律法には「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」(レビ19・18)とはありますが、どこにも「自分の敵を憎め」という律法はないのです。

むしろ、「あなたの敵の牛やろばが迷っているのに出会った場合、あなたは必ずそれを彼のところに連れ戻さなければならぬ」(出エジプト23・4)との規定がありました。ところが、律法学者やパリサイ人たちは、「隣人」を自分と同国人、つまり神の選民であるユダヤ人に限定

したのです。そして、ユダヤ人を愛し、異邦人は憎んでもよいと教えたのです。

しかし、イエスの「隣人」についての理解は全く違っていました。あの「よきサマリヤ人」のたとえ話によってもよくわかります。隣人とは人種差別を一切廃したすべての人であり、敵意とか好意を持っていることによって区別されないすべての人なのです。そのイエスが「自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」と教えられました。主が敵の中から特に「迫害者」を区別しておられるのは、他のどんな理由からの反対よりも、信仰のゆえになされる迫害が最も非情・苛酷かこくだからです。

二、天の父の愛

イエスは「天におられるあなたがたの子どもになるためです」と言われました。私たちの敵をゆるし、迫害者のために祈ることによって、私たちが神の子とされるではありません。私たちは神の恵みとイエスへの信仰によって救われ、新しく生まれ変わり、神の子とされたのです。神の子は、愛なる天の父なる神に似るはずです。それゆえに、私たちが敵を愛する時、私たちはその愛の父にふさわしい者となるのです。

さらに、イエスは「父はご自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからです」と言われました。父なる神は善人と悪人を区別できないようなお方ではありません。悪い者と良い者を区別なさった上で、公平にすべての人を取り扱っておられます。ここに神の公平が神の義と愛に基づいていることを知るのです。

イエスは、自分を十字架につけた人々を前に、「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです」(ルカ23・34)と祈られました。ここに敵をゆるし、迫害する者のために祈られたイエスの愛を見ることが出来ます。主は私たち罪人のために十字架上で死んでくださったのであり、それはイエスをこの地上に遣わしてくださった神の愛なのです(ローマ5・8)。

三、人を愛する者

イエスは「自分を愛してくれる人を愛したとしても、あなたがたに何の報いがあるでしょうか。取税人でも同じことをしているではありませんか」と言われました。これは、どんなモラルの欠けた人でも自分を愛してくれ

る人を愛することはできるのだ、ということ です。しかし、私たちは隣人を愛することはなかなかできません。また、他人に害悪を与えられると黙っていられず、復讐しようという気持ちが湧いてきます。

その私たちに對して、イエスは「ですから、あなたがたの父が完全であるように、完全でありなさい」と語られました。この完全は、知恵や力の完全でなく、愛における完全、全き愛のことです。この完全をきよめ(聖潔)と言います。「自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈」れるのは神の愛によるのであり、キリストの心によるのであって、聖霊によって神の愛が心に注がれて初めてできることです(ローマ5・5)。そして愛の領域で完全になるとは、混じりけのない、不平等や不公平のない、透明純粋な愛をもって生活し行動することができようになることです。

結論

神と交わり、イエスの血によってきよめられ(Ⅰヨハネ1・7)、聖霊によって神の愛を注がれ、愛が全うできる者を目指しましょう。

研究資料

(宮澤清志)

5月21日の週より、マタイの「山上の説教」を通しての「キリストの教え」という単元が始まっている。紙面の関係で、緒論的な事柄は割愛してきたが、必要であると考え、山上の説教の緒論的なことを少し見ておきたいと思う。

マタイは、その福音書の中で、イエスが教えたことを5つの個所にまとめた。その中の一つが「山上の説教」である(あとの4つは10章、13章、18章、24〜25章である)。マタイは、大宣教命令をもってこの福音書を締めくくる。マタイは、イエスの大宣教命令の中の「わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのこと」(28・20)を、この5つの個所に「イエスの教え」という形で集めたのである。

さて、この個所は、21節から始まる一連の流れの中にある。これは、『…』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。(21、27、33、38、43)と、律法の伝承を取り上げて、「しかし、わたしはあなたがたに言います」と、その伝承を否定し、イエスの新しい光の中でこ

の律法を解釈して見せたのである。

テキスト

43 あなたの隣人を愛し、あなたの敵を憎め 前半部分の「隣人を愛し」という言葉については、レビ19・18に言及されている。この戒めは、主イエスにとって、神に對する愛の戒めとともに最も重要な戒めとされている(22・34以下)。しかし、後半部分の「敵を憎め」という記述は、聖書をはじめ、ユダヤ教文献のどこにも見いだされてはいない。しかし、ユダヤ人たちに「あなたの敵を憎め」と言われていたのを、あなたがたは聞いています」と語ったイエスの言葉に対して、群衆やユダヤ人たちは反論していない。また、当時のユダヤ人社会の教えや文献からして「隣人」とは、同胞であるユダヤ人だけを指すと解釈し、他のあらゆる民族を、異邦人であり敵であると思え、と解釈できるようである。

44 イエスがその御国の民に命じられた言葉である。**敵** 直訳は「あなたがたの敵」であるが、「あなたがたから見の敵」というよりはむしろ「あなたがたを敵と見る人々」という意味であろう。御国の民には「敵」はいな

い。いるのは自分たちを「敵」と見る人々である。愛し感情的なものであるというよりは、むしろ強い意志を伴ったものである。自分を迫害する者のために祈りなさい。ここに用いられている二つの動詞は現在形で書かれている。ここでは、一般論としての命令ではなく、具体的な人々を想定して語っているようである。

45 神の子とされた者は、その結果、そのしるしとして敵への愛や迫害者に対する祈りへと導かれる、というのである。父はご自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからです。人間に対する神の働きは、人間の何かによって条件付けられるのではない。しかし、このことはユダヤ人たちには信じがたいことであつた。なぜなら、契約の民であるユダヤ人は、神から特別扱いされていると信じていたからである。それは同時に、因果応報という考えを根底に持つ日本人と日本人キリスト者に対するメッセージでもある。

46〜47 ここに「取税人」と「異邦人」とが道徳的に一段低い存在として例示されている。これは、もちろんイエスご自身が彼らを軽蔑したというのではなく、当時の

ユダヤ人の間における常識的な見解を採用したのである。あいさつ 単に挨拶を交わすというのではなく、挨拶をする相手に神からの祝福を祈る祈りが含まれる。

48 この個所は、第一義的には今回取り上げた43節以降の結論部分ということが出来る。しかし、それ以上にこの個所は21節以降の締めくくりのみ言葉として読むことができる。その鍵となる言葉は「完全」という言葉である。ちなみにこの言葉は、並行記事のルカ6・36では「あわれみ深い」と訳されている。しかし、マタイがここでいう「完全」とは、マタイの文脈から理解すると、人を差別することなく愛する、という意味に解することが出来る。この個所は「愛」の対象としての「隣人」を定義づけているのである。その隣人に対して45節にあるように、公平に愛を注ぐという意味での「完全」を意味しているのである。なぜならば、それは「天の父」がそうであるからである。

参考図書 5月21日分と同じ。

聖書

マタイ7・1〜5

タイトル

人をさばくな

暗唱聖句

さばいてはいけません。自分がさばかれ
ないためです。
マタイ7・1

目標

人を裁かない者となる。

導入

(今田雅子)

M君は学校からの帰り道、「K君って、ちょっとテストで良い点とって先生にほめられたからってなんか威張ってない。でも、何言ってるか分ない時ってあるよね。もつとハッキリ喋らないとね」こんな話を友だちとしていました。家に帰ってお母さんと話している時、「M君、最後までもつとしっかり口を動かしてゆっくり話したほうが良いよ。何を言いたいか分らないからね」とお母さんが言いました。皆さんだったらこんな時、どんな反応をしますか？

さばいてはいけない

イエス様は、弟子たちや沢山の人たちに「さばいてはいけません。自分がさばかれないためです」と言われました。「さばく」って他の人の悪口を言ったり、欠点を責

めたり、自分の考えでその人を決めつけたりすることなんです。イエス様は何を教えたかったのでしょうか？ 皆さん！ 何かを指す時の手は、どんな形かな？ 人差し指を伸ばして、あとの指を握りグーをしたらその形になります。その人差し指の先を誰かに向けると、三本の指は自分の方に向かってるよね。イエス様はこのことを言われたのです。他の人に向かって、悪口をいう時、その何倍もが自分に向けられていることを忘れないでね、と言うことです。イエス様は、「あなたがたは、自分がさばく、そのさばきでさばかれ、自分が量るその秤で量り与えられるのです」と言われました。私たちは人のことはよく見えるけれど、自分のことはわからないことがあります。皆さんは、他の人に「ほら、顔に何かついてるよ」って言われたことありませんか？ 「えっあつ、ほんとだ！」って気がつくことがあるよね。誰でも、他の人のことはよく見えるんです。イエス様も、周りにいる人に向かって『ほら、あなたの目の中に小さな砂のようなちりがあるから取ってあげよう』と言うくせに、自分の目に大きな電柱のような丸太が入っている。それには気がつかないし、認めようとしらない」と言われま

した。これは、他の人の欠点や弱いところには凄く気がつくのに、自分の中にある罪には全然気がつかない、気づこうともしないという態度やありかたなんですね。そして、他の皆より自分は偉い、悪いところなんてない。でも、他の人は駄目だ、あそこが悪い、と心の中で思っていることなのです。

人は人をさばく資格がない

人間はどんなに偉い人やかしこい人でも、一緒に住んでる兄弟、仲良しの友だちなど、他の人の全部を知ることとはできません。良いとか悪いとかを本当にさばくことができるのは神様お一人だけなのです。皆の前で悪口を言ったり、隠れて言ったりしたことがなくつても、心の中で悪口を言ったり、自分は偉くて他の人は駄目だと見下げたり、憎んだりすることはあるよね。神様は私たちの心の中の思いまでぜんぶ知っておられるのです。だから、神様の前に隠そうと思っても、隠せる罪は無いのです。皆さんは、自分の心の中にある罪、嫌な思いを持っている自分からはなれたいと思いませんか？ 罪に捕まってしまうことも出来ないからだから自由にされるにはどうしたらいいのでしょうか。それはイエス様の十字

架を信じることです。イエス様は、私たち一人ひとりの罪を全部背負って十字架で死んで下さいました。そのイエス様の十字架は私の罪の身代わりだと信じるとき、はじめて私たちは心のすみずみまで新しくされ、本当の正しさ（義）ときよさ（聖）をもって、神様のかたちに造られた新しい人にされていくのです。本当に、感謝です！

人をさばかない生き方

イエス様は、十字架の上で「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっているのです」と祈られました。この祈りは、人をさばかない生き方のお手本なのです。私たちはこのイエス様の祈りを忘れないようにしましょう。そして、イエス様が十字架で流された血によつて罪赦された自分だということを忘れずに感謝して、イエス様の後を歩みましょう。イエス様のように歩みたいと祈るなら、神様がそのようにして下さいます。

♪つきひとともに♪（イン43）

聖書 マタイ7・1～5 テーマ 人をさばく

序論

(小泉 創)

イエス様は山上の説教の中で、弟子たちに多くのことを教えてくださいました。その中に偽善者という言葉が繰り返して出てきます。つまり表面的な姿と、中身が異なっている人物のことです。さも自分が良い人物であるかのようにふるまっていますが、内面はそうではないのです。この個所では、互いの人間関係の中で、「さばく」とについて取り上げています。「さばく」とは、ここでは「人を自分の尺度で判断したり、決めつけたりすること」と言い換えることができます。

一、さばくとはならない(2)

あなたは誰かをさばいたことがありますか。私が子ども(こども)のころ、家に匿名で苦情の電話がかかってきたことがあります。そもそもは自分たちに落ち度があったことなのですが、とても不安な気持ちになりました。近所の人だということはわかったので、電話をかけてきたのは

あの人だろうか、と疑心暗鬼になりました。そういう目で見始めるとなお怪しく思えて、その人が笑っているのを見ても心が波だったものです。ところがある時、電話の主が全く別の人であることが分かったのです。関係のない人を心でさばいていたことに心が責められました。

人は他の人をどれだけ正しく理解することができのでしょうか。知らぬ間に色眼鏡をかけて人を見てしまっていて、自分は正しく判断しているつもりでいながら、実はまったく見当違いだったということは大いにあります。逆に自分に批判的な人がいると、いつしか自分もその人を批判し始めるようになることもあります。人をさばくということは、自分もまたさばかれるようになります。さばきやすい私たちに、イエス様は人をさばいてはいけませんとおっしゃいました。

二、ちりと梁(3、4)

ひよつとしたら、私たちがほかの人の目の中の〈ちり〉(おが屑・新共同訳)のように些細なことでも気になるのは、他の人の中に、自分の嫌な所と同じものが見えるからかもしれません。イエス様は皮肉をこめて語っておら

れます。他の人の目の中にあるちりが気になって仕方がないあなたの目には、〈梁〉（丸太・新共同訳）が入っているのではないか、まずその梁を何とかしなさい、と。私たちの心に、自分のことを棚にあげて他の人のことばかり気になるような偏見がないでしょうか。自分は偉いと思うような高ぶりがありませんでしょうか。誤った判断に陥らないために、自分がまず神の御前に取り扱っていたかなければなりません。

私たちは時に二つのばかりを使い分けやすいものです。一つはあまり好意をいだいていない人をはかるための厳しいばかり、もう一つは、自分を含めて、好意をもっている人のための、ゆるいばかりです。しかし、神の前では、誰しもが公平に評価されるはずなのです。

三、神の御前で、磨きあう（5）

イエス様は、欠けのある私たちには、他の人のどんなことにも、目をつぶるべきだとおっしゃっているのでしょうか。当たり障りのない表面的な関係を築くことが、神様のみこころなのでしょう。イエス様は、〈まず自分の目から梁を取り除きなさい。そうすれば、はつき

り見えるようになって、兄弟の目からちりを取り除くことができません〉とおっしゃいました。取りのける必要はない、とはおっしゃっていません。

偽善者よ、というイエス様の言葉は、実は不親切な批判なのに、親切さを装っていることを指しているのかもしれない。でも、本当に親切からくる批判はどうでしょうか。あなたに時に厳しく忠告してくれる友があれば、それは何にも代えがたい宝です（箴言27・5）。

愛による勧告は、聖書の中で勧められています。その人のためにとりなし折って、愛に根差しなければ、本当の勧告にはなりえないでしょう。欠けのある私たちは、共に神の御前に立ち、磨きあうためにもお互いを必要としているのです。

結論

神の面前におそれたずむしかないような自分が人を裁くとは、何と恐れ多いことでしょう。けれども必要な時には愛によって互いの間違いを指摘する言葉を語り、素直に受け取れる私たちでありたいのです。

研究資料

(辻林和己)

マタイによる福音書5章から7章までは、「山上の説教」と呼ばれている個所である。山に登られた主イエスは、弟子たちと群衆に向かつて語られる。5・17から6・34まで、主は律法学者、パリサイ派を批判しつつご自身の律法、善行、この世の富に関する教えを語られた。7章は、天の御国の民とされた者たちの生活態度や神のさばきを覚えて生きることを語られる。

テキスト

1 さばいてはいけません (ギ)メー・クリネテ) は現在形命令法で、習慣として人のあら捜しを好んですることを禁じている。ここでの「さばく」(ギ)クリノー) は、「非難する」、「咎める」の意味。裁判所の裁判の「さばき」のことではない。ここでは特に「人を自分の尺度で判断したり、決めつけたりすること」を意味している。ヤコブ4・11の「自分の兄弟について、…さばいたりする者」と4・12の「隣人をさばくあなた」の原文では両方とも同じ動詞の分詞形が使われている。

2 さばかれ 他人を批判する基準に従って自分も評価される。当人が誰^{だれ}によって「さばかれる」のかは明示されていない。究極的には神によってそれがなされる。

量りとえられる 原文では動詞「量る」(ギ)メトレオー)の未来形受動態が用いられている。新改訳第三版では「量られる」と訳されている。

3 人を批判する心の矛盾を、主イエスはたとえを用いて指摘される(3〜5)。この個所のたとえは、主イエスが宣教を始められる前に就いておられた職業、大工の仕事が反映していると思われる(マタイ13・55、マルコ6・3)。

兄弟 肉親の兄弟ではなく、ここでは「同民族に属する仲間」、「隣人」、「信仰上の兄弟」を意味している。ちり(ギ)カルフォス)は微小な乾いた木片。新共同訳では「おが屑」と訳されている。梁(ギ)ドコス)は木の横材。新共同訳では「丸太」と訳されている。ここでは、「梁」が人をさばくことが大きな過ちであることを示すシンボルとして用いられている。ちりと梁という余りにも大きさの違うものの対比は、他の人をさばくことがいかに理に合わないことを示す誇張法である。主イエスはここで誇張法を用いて、自分の大きな欠点を棚に上げ、

他の人の小さな欠点を暴き立てることが、いかに愚かなことかを人々に気づかせようとしておられる。

4 自分の目には梁がある 「もし、自分の中に梁があるなら…」ではなく、主イエスは、ここでの聴き手である弟子たちや群衆に対して、はっきり「あなたがたの目には梁があるではありませんか」と仰っておられる。すべての人は、罪の下にあり、心の内に他の人をさばく思いがある（ローマ2・1、3・9参照）。**あなたの目からちりを取り除かせてください** 原文は英語の「I see」（「わたしに～させてください」）に似た表現。他人の欠点や過ちを指摘することのたとえ。

5 偽善者（ギ）ヒュポクリテース）はもともとギリシヤ古典劇の仮面芝居の俳優や役者のことであった。主イエスはここでは弟子たちに対して言っておられる。主は、この言葉を、しばしば律法学者やパリサイ人たちに對して用いておられる（マタイ22・18、マルコ7・6等）。**まず自分の目から梁を取り除きなさい** 「梁（丸太）」を「罪」と解釈すると、まず自分の内に罪があることを認め、それを取り除くことを意味する。しかし、自分の内に罪があること、自分の側に過ちがあることを認めても、自

分の力で罪を取り除くことはできない。主イエスは聴き手に自分の内にある罪を自覚させようとされた。私たちの梁（罪）を取り除くことができるのは、主イエスの十字架による贖いによってのみである。**はっきり見えるようになって** 「霊的な目」が開かれること。自分の罪が、主イエスによって赦されたものは、自分の内の罪がさらにはっきりと見えてくる。「さばいてはいけません。」のみことばをいただいても、私たちは人をさばいてしまう罪人である。しかしそのような罪人を赦し、さらにきよめて下さる主の十字架の恵みを知る（ローマ5・20参照）。**兄弟の目からちりを取り除くことができます** 主の赦しと愛をいただいた兄弟同士は、互いにさばき合うのではなく、ゆるし合い、「互いに訓戒し合うこと」ができるようになる（ローマ15・14参照）。

参考図書 増田誉雄「マタイの福音書」『新聖書注解』、内田和彦「マタイの福音書」『新実用聖書注解』（いのちのことば社）他

二〇二三年度カリキュラム解説

今年度より、新しい三か年カリキュラムが始まります。今回のカリキュラムは基本的には二〇一七～二〇一九年の三か年カリキュラムをもとにしており、旧約聖書は3年かけて、原則として歴史順に学び、新約聖書は各年、いずれかの福音書を中心にイエス様の生涯を一通り学ぶことができます。その他、教会暦や行事に合わせたカリキュラムも盛り込んでいます。

①旧約聖書

旧約聖書からの学びは、創世記から士師記までです。よく知られた箇所が多いですが、その分、信仰生活の基本を教えることのできる部分でもあります。

②新約聖書

新約聖書はマタイによる福音書を中心に学びます。「キリストの教え」「キリストのみわざ」「キリストの譬話」に続き、「クリスマス」単元をはさんで、「キリストの十字架への道」「復活」へとつながります。

③教会暦・年間行事によるカリキュラム

昨年度末の単元「キリストの十字架への道」に続き、今年度初めには、受難週・イースターに合わせて、単元「受難・復活」が置かれます。年末からは、収穫感謝に続いて、単元「クリスマス」「年末年始」と続き、年度末には再び受難週、イースターを迎えます。

④テーマ「神を信じる生涯」(イザヤ40・26)

今年度のテーマは、二〇一七年度と同じ「神を信じる生涯」としました。創世記の学びを通して、創造者なる神を覚えることができます。加えて、7月には「神」というテーマ単元を設けました。神様がどんなお方であるのか、改めて確認しながら、神様への信仰が培われ、深められていく一年となりますように。

なお、「カリキュラム」は教会教育室ホームページからダウンロードしていただけます。また、「ワーク(A・C)」、「子ども聖書日課」、「中高科へのヒント」、「み言葉カード(カラー、主要5訳対応)」、「フラッシュカード(白黒、カラー)」を無料でダウンロードしていただけますので、ぜひご活用ください。

おわりに

『牧羊者』二〇二三年度Ⅰ巻をお届けできますことを感謝します。また、執筆者のご労に感謝いたします。

巻頭言は大分福音キリスト教会の田代美雪師が執筆してくださいました。教師養成講座は二〇〇五年度Ⅳ巻に掲載された工藤弘雄師の原稿を一部編集して再掲させていただきます。「牧羊ひろば」はお休みさせていただきます。

今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

『牧羊者』のご購読・ご利用について

* 分級用に、ワークA(幼稚園向け)、B(主に小学生1～3年生向け)、C(主に小学生4～6年生向け)を用意しています。また、付録として「子ども聖書日課」、「フラッシュカード」、「み言葉カード」、「中高科へのヒント」があります。いずれも、下記ホームページから無料でダウンロードできます。送付ご希望の方には、ワークは各600円+税でお送りします。
信徒局 教会教育室 ホームページ
<https://cs.jccj.info/>

* ご注文は、日本イエス・キリスト教団(事務局)まで。申込み、部数変更等のための用紙も、上記ホームページからダウンロードできます。
神戸市兵庫区塚本通3-3-19
電話 (078) 575-5511
FAX (078) 575-6611

| メッセージ例 | 後藤 真師 | 土屋 開夫師 | 和 田 牧 子 師 |
|--------|--------|--------|-----------|
| 聖書講解 | 飯田勝彦師 | 今田雅子師 | 高橋頼男師 |
| 研究資料 | 石田高保師 | 小泉 創師 | |
| ワーク(A) | 水川武志師 | 福井文彦師 | |
| ワーク(B) | 小平徳行師 | 辻林和己師 | 加藤 満師 |
| ワーク(C) | 金井由嗣師 | 宮澤清志師 | 中島啓一師 |
| | 吉田美穂師 | 鎌野 幸師 | 宇野真佑美師 |
| | 勝田幸恵師 | 山下大喜師 | 三輪直子師 |
| | 野勢かほる師 | | |
| | 上森恭子師 | 勝田幸恵師 | 八幡直人師 |
| | 田中裕明師 | | |
| | 後藤健一師 | 石田高保師 | 三輪正見師 |
| | 金田ゆり師 | 小野淳子師 | 田中愛子師 |
| | 柴田福音師 | 後藤栄子師 | 松浦あん姉 |
| | 丹羽 遥姉 | | |
| | 柴田福音師 | 後藤栄子師 | 松浦あん姉 |
| | 丹羽 遥姉 | | |
| | 中島福音師 | 後藤栄子師 | 松浦あん姉 |
| | 丹羽 遥姉 | | |
| | 中島啓一師 | | |
| | 後藤健一師 | 中島啓一師 | |

また、事務作業・発送の教団事務所の兄姉、組版の松木共栄印刷、印刷のプリントパックに心から感謝いたします。(中島啓一)

聖書教育教案誌 牧羊者

二〇二三年度Ⅰ巻

二〇二三年四月一日発行

発行所 日本イエス・キリスト教団 信徒局 教会教育室
企画監修 日本イエス・キリスト教団 信徒局 教会教育室

神戸市兵庫区塚本通三-三-一九
電話 (078) 五七五-五五二
FAX (078) 五七五-一六六

印刷所 株式会社プリントバック

* 聖書 新改訳2017 ©2017 新日本聖書刊行会 許諾番号 4-2-1750号